

APPROACH

KOBE

No.55

2026.1.31



(一社)兵庫県建築士事務所協会
神戸支部

<https://www.kobe-aaf.org/>



神戸市耐震キャラクター
オキールファミリー

APPROACH KOBE

NO.55 2026.1.31

巻 頭 挨拶	ご挨拶 新年に寄せて 新年のご挨拶	神戸支部長 川崎 史 神戸市長 久元 喜造 神戸市建築住宅局長 根岸 芳之 1 2 3
行 政 だ よ り	建築指導部 「将来型位置指定道路」基準の創設 建築指導部 再建築不可土地における接道許可の活用 建築指導部 建築物およびその敷地への緑化基準の改正 すまいるネットだより 消防局 建築物が法令違反とならないために 消防局 神戸市火災予防条例の一部改正について～二方向避難経路の考え方～	 4 5 7 9 11 13
特 集	神戸市突堤見学会 視察レポート 現代の閉塞感を打ち破る「2割開き」の聖域。南吹田「琥珀街」に佇む「オクの本屋」 建築はもっと自由で、もっと熱くなれる——「有元温調・久設備設計室」というプロ集団 長屋の切り離し工事が孕むリスク 建築家・安藤忠雄の到達点：淡路夢舞台の建築空間を解説する	 15 17 20 23 25
一 泊 旅 行 記	「関・伊勢・多気」の町めぐり研修	 28
日 帰 り 研 修	大阪・関西万博 日本館 大阪・関西万博 日本館 大阪・関西万博	株式会社佐伯設計 阿路川美香 事業厚生部 阿部 宏明 (株)エネ・グリーン大阪支社 祖父江綾子 30 32 33
	技術研修会活動報告	 34
設 計 作 品	津田アジトⅡ 一級建築士事務所 YURI DESIGN 丸正建設株式会社一級建築士事務所 兵庫三菱自動車販売株式会社神戸本店	 38 40 42
	ボウリング大会	 44
同 好 会 だ よ り	ゴルフ同好会 K J 会 カメラ同好会	 45 46
	建築美に宿る、えべっさんの気品	 50
コ ラ ム	南インドの旅 オリーブの樹をめぐるお話 廊下を歩けば、100年前へ。東京ステーションホテルで見つけた、美しき歴史の迷宮 【淡路島】光の建築、ヨガするサンタ、冬の「あわじグリーン館」満喫レポート	 51 53 55 58
事 務 所 商 会	株式会社クギン 大阪支店 株式会社エネ・グリーン 大阪支社 株式会社ナカムラ 東芝エレベータ株式会社 兵庫支店	 60 62 64 66
会 員 動 向	正会員／賛助会員	 68
活 動 報 告	令和7年度	 69
組 織 図	令和7年度	 72
受 賞 報 告	兵庫県自治賞 谷 弘一 氏	 73
協 賛 広 告		 74
編 集 後 記		 77



ご挨拶

神戸支部長

川崎 史

新年あけましておめでとうございます。

正会員・賛助会員の皆様ならびに関係各位におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平素は、一般社団法人 兵庫県建築士事務所協会 神戸支部の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、近年、地震災害への備えとして既存建築物の耐震化が重要な社会課題となっております。当支部では、神戸市より緊急輸送道路沿道建物耐震化サポート業務をはじめ、建築家と協働した空き家活用に伴う建築士紹介の窓口業務、建物査察案件に伴う調査業務などを受託し、専門団体として行政施策の一翼を担っております。

また、一般財団法人 神戸住環境整備公社からは耐震診断業務や高経年マンション外観調査業務、建築専門相談員派遣等を受託しており、会員の皆様の専門的知見が地域の安全・安心に直結する重要な役割を果たしています。

現在、神戸支部には正会員105名、賛助会員57社が所属しております。これらの委託業務や支部事業は、会員一人ひとりの積極的な参画があってこそ成り立つものであり、実務を通じた技術研鑽のみならず、建築士としての社会的役割を実感できる貴重な機会でもあります。ぜひ多くの会員の皆様に主体的に関わっていただき、支部活動をもに支えていただければ幸いです。

また、神戸支部では、日帰り研修や一泊研修、

正会員・賛助会員合同の技術研修会、会員向けセミナーをはじめ、建築士事務所キャンペーンの一環として各地域福祉センター内で親子建築模型体験会のイベントを開催し、また、親睦ボウリング大会、ゴルフ同好会など、さまざまな事業を実施しております。これらの活動は、会員相互の情報交換や交流を深め、連携を強化する貴重な機会であり、今後も積極的な参加を通じて支部活動の活性化につなげていきたいと考えております。

さらに神戸市において進められている各地区の再開発事業は、都市機能の更新のみならず、防災性の向上、交通結節機能の強化や街並み環境の質的改善を目的とした重要な取り組みであります。こうしたまちづくりの動きに対し、私たち建築士事務所が専門性と倫理観をもって関与していくことは、地域に根ざす専門団体としての使命であると考えております。

そして、一般社団法人 兵庫県建築士事務所協会の持続的な発展のためには、次世代を担う若手建築士の育成が不可欠です。来年度は役員改選の年となりまた新たな組織が誕生しますので、より一層中身の濃い研修会や実務を通じた経験の場を設け、技術と責任感を備えた人材の育成に引き続き力を注いでまいります。

最後になりますが、正会員・賛助会員の皆様ならびに関係各位のご健勝とご活躍、そして本年が実り多き一年となりますことを心より祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



新年に寄せて

神戸市長

久元 喜造

新しい年を迎えるにあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

兵庫県建築士事務所協会神戸支部の皆様には、神戸市政に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年秋の市長選挙におきまして、市民のみなさんからご信任を賜り、引き続き4期目の市政を担わせていただくこととなりました。私は市長就任以来、常に「公正で折り目正しい行政」を貫き、あるべき自治体の姿を追い求めてきました。これからの初心を忘れることなく、市民のみなさんからの期待にお応えできるよう、全力を尽くしていく所存です。スピード感をもって先駆的な施策を展開し、次の時代に誇ることができる神戸を築いていきます。

今、神戸のまちは、大きく変わりつつあります。都心三宮、ウォーターフロントでは新たな賑わいと美しい風景が生まれ、郊外では拠点駅を核に、まちが新たな表情を見せ始めています。神戸空港の国際化を契機に、神戸は新たな国際都市としての可能性を手にすることができました。神戸空港島の将来構想の策定や空港ターミナル機能の強化に取り組むなど確かな成長へと歩みを進めています。こうしたまちの成長を市民一人ひとりの暮

らしの豊かさへと着実につなげていくことが必要です。目先の人口増を追い求めるのではなく、将来の世代に対して、責任を持って引き継ぐことができる持続可能なまちづくりを進めます。

都市の繁栄は災害に強い、強靱な基盤があつて初めて成り立ちます。災害や感染症などあらゆる危機から市民を守る安全・安心なまちづくりに引き続き取り組むとともに、子育て支援のさらなる充実、教育環境の整備、地域医療や福祉の強化など、すべての世代がいきいきと暮らせる「人間らしいあたたかいまちづくり」に注力します。

神戸は自然と暮らしが調和するまちです。森林や里山の再生やまちの緑化に向けた「森の未来都市・神戸」の取り組みや再生可能エネルギーの活用など、自然と共生するまちづくりを進めていきます。

これらを実現するためには、市民のみなさんの参画が不可欠です。対話を重ね、学生や企業・地域団体などの多様な主体による地域協力を一層推進していきます。

末筆ではありますが、兵庫県建築士事務所協会神戸支部のますますのご発展と、本年が皆様にとって、素晴らしい一年となりますことをお祈りいたします。



新年のご挨拶

神戸市建築住宅局長

根 岸 芳 之

新年あけまして、おめでとうございます。

兵庫県建築士事務所協会神戸支部の皆様方におかれましては、お健やかに良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より神戸市の建築・住宅行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、阪神・淡路大震災から30年という節目の年であり、防災・減災の取り組みの重要性を再認識する一年となりました。建築住宅局としましても、すまいの耐震化をはじめとする安心・安全なすまいづくりを進めるとともに、「神戸らしさ」を活かした都心と郊外のバランスの取れたまちを目指し、引き続き既存住宅の流通促進や質の向上、持続可能で良質な住宅供給など、多様な住まい方に対応した施策を展開してまいります。

既存住宅の流通促進や質の向上に関しては、「神戸市マンション管理の適正化の推進に関する条例」を制定し、2026年7月1日から「管理状況の届出制度」の義務化を開始し、これまでのマンションの長寿命化や再生に向けた検討に対する補助、マンション管理計画認定制度とあわせ、分譲マンションの管理適正化をさらに推進してまいります。

また、マンションの買取再販事業において、断熱性能向上リノベーションのプロセスを市民や事業者公開する取組を支援する「ミセリノベ」を

実施し、体感機会の提供を通じた住まいの断熱化への意識啓発と断熱性能の高いマンションの市場流通に向けて取り組んでおります。

さらには、近年の住宅価格の高騰などをふまえ、「良質でちょうどいい戸建て中心の住宅供給」として、都心や郊外、農村里山などのまちの特色を生かした多様なライフスタイルの実現を目指し、市有地を活用した宅地供給などの取り組みを進めております。

住宅セーフティネットの充実に向けは、神戸市居住支援協議会を通じて住まいの確保にお困りの方の入居支援や生活支援を行う居住支援法人と不動産事業者とのネットワークづくりに取り組むとともに、新たに「居住サポート付き住宅」の認定制度を開始したところです。

こうした取り組みの推進にあたりましては、建築の専門家である建築士事務所協会の皆様をお願いするところが大きく、皆様のご支援、ご協力を賜りながら市政に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

最後になりますが、本年が皆様の益々のご発展の年になりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

「将来型位置指定道路」基準の創設

兵庫県建築士事務所協会神戸支部の皆様には、平素より本市の建築指導行政にご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本市では、2025年4月1日に「位置指定道路（建築基準法第42条第1項第五号に基づく道）に関する技術基準」を改正し、「既存の道（以下、既存通路という）」を将来型位置指定道路として指定するための基準を新たに定めましたのでご案内します。

建築物の新築や建替え、増築等を行う場合には、その敷地が建築基準法上の「道路」に2m以上接する必要があります。位置指定道路とは、土地を建築物の敷地として利用するために造られる道で、建築基準法に基づいて市長がその位置を指定したものをいいます。

本市では2003年に位置指定道路に関する技術基準を策定し、主に新しく造られる道を対象として指定を行ってきましたが、このたび基準を一部改正し、既存通路を新たに指定できるようにしました。

既存通路に関する改正の概要

(1) 有効幅員

既存通路で、将来有効幅員を4メートル以上確保するものは、指定時の有効幅員が4メートル未満（1.8m以上）であっても指定を可能としています。

<適用条件>以下のすべてに適合

- ・建築基準法施行令で道に関する基準が定められた1971年以前から存するもの
- ・指定を行う部分が全区間にわたって有効幅員1.8m以上のもの
- ・指定を行う部分が延長35m以内（通り抜けの場合は延長70m以内）のもの

※指定時に転回地を設ける場合で、有効幅員2.7m以上あるものは除きます。

(2) すみ切り

指定時に設置が困難な場合、カーブミラー設置等により安全対策を講じていれば、整備不要とします。

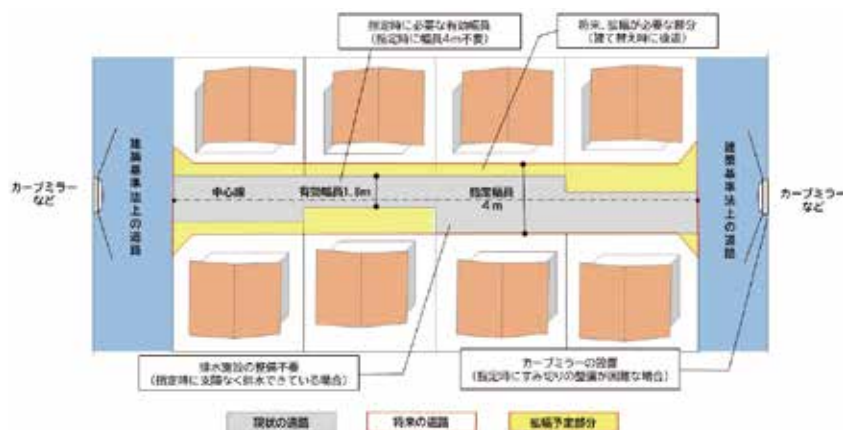
（※行止まり通路で、延長20m以内かつ縦断勾配8%以下の場合、カーブミラー等の設置は不要です。）

ただし、いずれも将来的には、すみ切りの整備が必要です。

(3) 排水施設

指定時に支障なく排水できている場合は、側溝等を整備不要とします。

「既存通路」の基準活用イメージ



持続可能なまちづくりの取り組みとして、既存通路の指定を進め、防災性の向上や住環境の改善を図りながら、老朽化した既存建築物の建て替えや空き家空き地の流通の促進等につなげていきたいと考えています。

再建築不可土地における接道許可の活用

神戸市建築住宅局建築指導部建築安全課

島田 臣也

現在、空き家空き地の増加が全国的な課題となっているなか、神戸市では特に既成市街地の山麓部を中心に建築基準法の接道要件に適合せず、不動産市場において「再建築不可」とされる土地が一定数存在しています。このような「再建築不可土地」は、接道要件に適合する土地と比べて、建物の更新や市場流通が難しく、空き家空き地の活用、住宅の更新を通じたまちの安全性向上という観点からも課題があります。

「再建築不可土地」への原則的な対応としては、接道可能な隣接地と統合するなど、接道要件に適合させるというアプローチがありますが、今後、人口減少に伴い空き家空き地がますます増加するなか、「再建築不可土地」を再生するための現実的かつ多様なアプローチが求められています。

本稿では、建築基準法の接道許可（法第43条第2項第二号）の活用による「再建築不可土地」の再生という観点で、神戸市における接道許可制度についてご紹介します。

一般的に接道許可は、個々の計画ごとに、交通上、安全上、防火上、衛生上支障がないことを、協議、審査したうえで、建築審査会の同意を得る必要がありますが、神戸市では、許可基準の明確化や手続きの簡素化を図るために、許可実績が多い事例を定型化した「包括同意基準」を策定し、ホームページで公表しています。

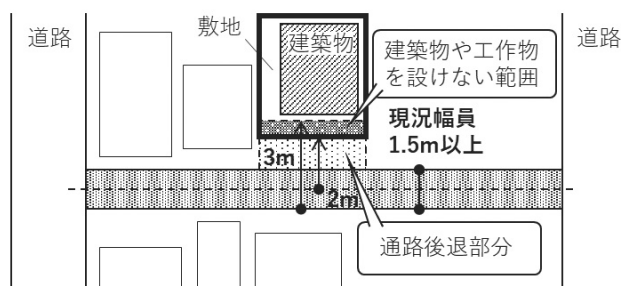
（包括同意基準の例）

現況幅員が1.5m以上の通り抜け通路に2m以上接する敷地 （C-5）

条件（抜粋）

- 通路の所有者から通行等の同意を得られている
- 敷地の前は一時避難や採光・通風のため一定空間確保
- 戸建住宅 地上2階以下

など



詳しくは神戸市ホームページをご確認ください。

神戸市 接道許可



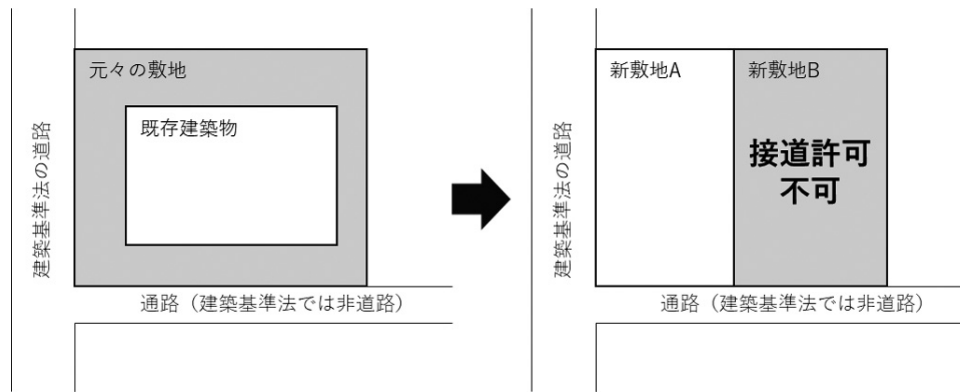
<https://www.city.kobe.lg.jp/a81042/business/todokede/jutakutoshikyoku/building/procedure/43.html>



この基準に適合する計画であれば、基本的には接道許可を受けることができます。通常の許可申請では、①適用できるパターンの有無の確認、②基準に対応した敷地状況や関係情報の整理、③不明点や誤解の解消も含めた窓口での確認、④建築計画の検討、⑤許可申請書類の作成・協議という流れで、この5つのステップを念頭に置くとスムーズに許可手続きを進めることができます。

特に「③不明点や誤解の解消」が重要になりますので、窓口におけるよくある確認事例をご紹介します。

- ・接道許可はあくまでも「やむを得ない」ものに対して例外的に適用すべき措置であるため、接道している敷地を分割して、新たに接道しない敷地が生じるような計画には適用できません。



- ・ 通路幅員は、計画敷地から建築基準法の道路まで範囲で最小幅員が基準（1.5m以上など）に適合している必要があります。
- ・ 計画敷地から道路までの通路の土地所有者の同意は必要ですが、通路に接する土地の所有者の同意は不要です。
- ・ 通路が市道などの認定路線の場合、通路所有者の同意は不要ですが、基準（1.5m以上など）に適合する幅員を確保するために、私有地が含まれる場合は、当該土地所有者の同意が必要です。

実際には所有者の意向や、ニーズ・事業性、施工方法、周辺環境など、他にも様々な影響の大きい要因があるかと思いますが、空き家空き地活用や、住宅の更新を通じたまちの安全性向上という観点で、「再建築不可土地」に関わる機会がありましたら、改めて接道許可の積極的な活用をご検討いただけますと幸いです。



建築物およびその敷地への緑化基準の改正

2025年の夏は、統計がとられ始めてから平均気温が最も高い「異常な暑さ」となりました。こうした異常な暑さへの対策のひとつとして、神戸市の市街地では、緑がつくる「木陰」を増やす「こうべ木陰プロジェクト」を進めています。

この取り組みに合わせ「神戸市建築物等緑化届出制度※」では、道路などに「木陰」をつくるような緑化を誘導するため、緑化基準を改正し、2025年4月から運用をスタートしています。

具体的には、建築物の敷地への緑化について、道路など公共空間から一定距離内にある中高木や生垣は緑化面積を1.5倍もしくは2倍に割り増して算定できるようにしています【改正①】。また、建築物への緑化のうちパネル型（基盤造成型）の壁面緑化は、同様に道路などから壁面までの距離に応じて1.5倍もしくは2倍に割り増して算定できるようにしています。なお、壁面緑化は、竣工後の緑化の維持の観点から、パネル型（基盤造成型）や登はん型（金網とヤシ繊維マットを併用した補助資材を用いる登はん型ツル植物によるもの）など面的緑化が確実に見込めるものに限って、緑化面積に算定することができるようあわせて改正しています【改正②】。いずれの緑化も、市街地を行き交う人びとの目に触れやすい位置にあることも狙いとしていますので、構造物等に遮られて道路などから容易に目視できないような場合は割り増しを適用することはできません。

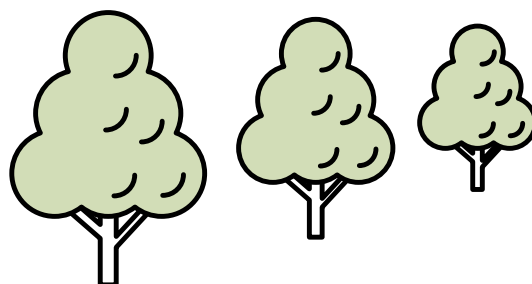


▲こうべ木陰プロジェクトの詳細はこちらから

【改正①】イメージ

道路などとの境界線から6m以内に位置する場合：1.5倍

道路などとの境界線から2m以内に掛かる場合：2倍



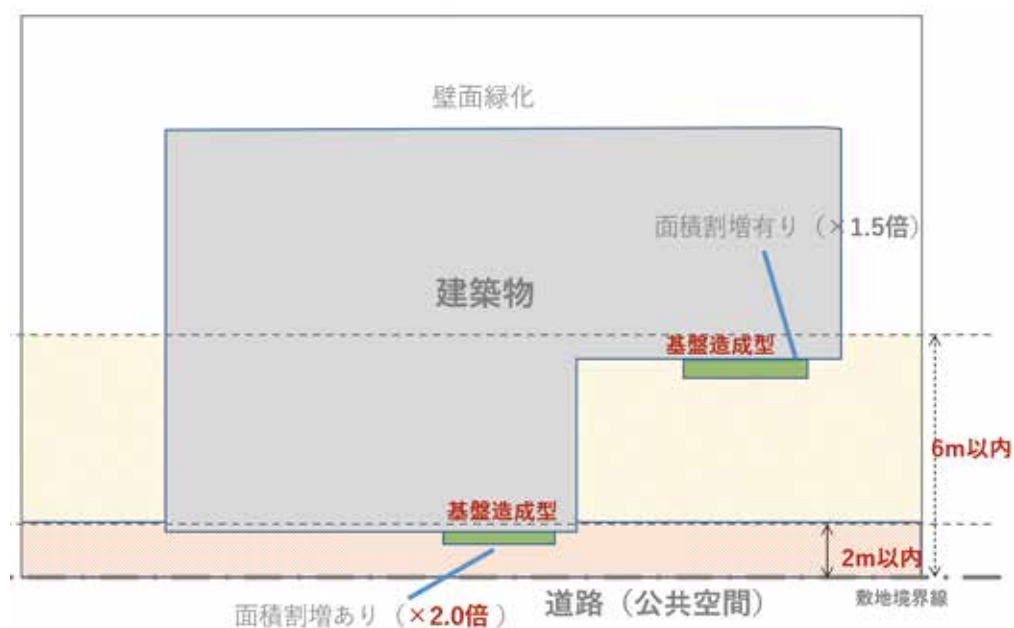
神戸市建築住宅局建築指導部建築安全課

葭田 和彦

【改正②】イメージ

道路などとの境界線から壁面まで6 m以内に位置する場合：1.5倍

道路などとの境界線から壁面まで2 m以内に位置する場合：2 倍



割り増しに関わらず緑地面積に算入できる壁面緑化は以下のものに限る

ア. 基盤造成型によるもの

イ. 登はん型ツル植物で金網とヤシ繊維マットを併用した補助資材を用いるもの

ウ. 計画地と同様の環境で緑化実績があり、面的緑化が確実に見込めると認められるもの（補助資材については、樹種に応じた適正な編み目の大きさと形状を有するもので、材質は耐久性のある金属素材に限る。）

※神戸市建築物等緑化届出制度の概要

以下の規模の建築物の新築などの場合は、緑化の計画を作成して神戸市への届出が必要です。このような計画の際は、改正した緑化基準の割り増し算定を活用いただきながら、「木陰」をつくり出すなどの豊かな緑化の計画をお願いします。

建築物等緑化計画の届出が必要な規模は以下の通り

新築の場合	敷地面積1,000㎡以上かつ建築面積500㎡以上
増改築の場合	敷地面積1,000㎡以上かつ建築面積のうち増改築に係る部分の面積が500㎡以上

建築物等緑化計画届出制度の詳細は、以下の神戸市ホームページに掲載しています。

▼二次元コード



もしくは

▼URL

<https://www.city.kobe.lg.jp/a81042/business/todokede/jutakutoshikyoku/building/procedure/ryokuka.html>

からアクセスできます。



新年あけましておめでとうございます。兵庫県建築士事務所協会の皆様には、日頃より神戸市住環境整備公社事業にご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

神戸市すまいの安心支援センター“すまいるネット”は、阪神・淡路大震災を契機に2000年に設立されました。設立以来、貴協会をはじめとする関係団体のみなさま方に支えていただきながら今日まで歩んでまいり、2025年10月1日、25周年を迎えることが出来ました。日ごろからの格別のご理解とご協力に重ねて心より感謝申し上げます。

これまで当センターは、相談、情報提供、普及啓発を事業の柱としながら、すまいの耐震化促進支援、マンション管理支援、高齢者の住み替え相談、空き家の活用支援、神戸市の各種補助制度の窓口など社会情勢を反映した様々な事業に取り組んでまいりました。

開設以来、貴協会神戸支部の皆様には、建築相談員、すまいの耐震診断員、高経年マンション外観調査、出張相談会、などのすまいるネット事業に対し、多方面でご協力ご支援をいただいております。ここに深く感謝申し上げます。そこで、今回は皆様に関連の深い事業について、現在の取り組みなどをあらためてご紹介させていただきます。



写真1 一般相談窓口の風景



写真2 センター正面の窓ガラスでペイントイベントを行いました！

1. すまいに関する相談窓口

すまいるネットには、すまいに関する相談が日々、たくさん寄せられます。建築・リフォームのこと、高齢者の住み替え、マンション管理、契約のトラブル、資金計画、空き家・空き地の活用相談など、様々なご相談・お悩みに対して、すまいの相談員が無料でアドバイスしています。相談員は、一級建築士、消費生活相談員、ファイナンシャルプランナー、マンション管理士が常駐し、各相談内容に対応しています。年間約6,000件の電話や来所での相談をいただいております。

貴協会神戸支部所属の建築士の方々にも、相談員として在席いただいております、相談者に



写真3 今回は吉田相談員に登場していただきました。すまいるネットに来ていただいて4年目です。

対してきめ細やかにご対応いただきながら、日々ご活躍いただいています。利用者からは「建築士の方がいらっしやっただので、とても助かりました。」などの感謝のお声を多数いただいています。利用者アンケートも90%以上の方が満足と答えてくださっています。市民の方のお役に立てたのではと、すまいるネットの存在意義を実感します。

これも相談員としてご協力いただいている皆様のご尽力の賜物であり、大変感謝しております。

2. 各種事業

(1) すまいの耐震診断員派遣制度

昭和56年5月以前に着工された旧耐震基準の住宅を対象に、耐震診断員を無料で派遣し、住宅の耐震性を診断する制度です。貴協会をはじめとする建築関連の専門家団体に派遣業務を委託し、貴協会神戸支部の皆様にも診断員としてご活躍いただいています。

当該制度をご活用いただきました市民の方からは「診断員の方が、丁寧に調査して分かりやすく説明してくれたおかげで、家の状況がよく分かった。」「親身に相談にのってくれた。」「専門家から安心して話を聞くことができた。」といったお声をいただき、そのまま継続して『耐震改修』へ進まれるケースも少なくありません。

旧耐震住宅の所有者に直接アプローチし、耐震化を促進する最前線を、貴協会神戸支部所属の建築士の皆様に担っていただいています。

(2) すまいるパートナー（選定支援システム）

「設計や工事を業者に依頼したいけれど、どこの業者に頼めばいいのか分からない」といった市民の声に応えるべく、設計事務所や施工業者、専門家団体等の名簿を作成し、ホームページに掲載しています。名簿掲載事業者の募集は年1回行っています。また団体名簿には、貴協会の神戸支部耐震委員会に、専門の団体窓口として掲載いただいております。

(3) 神戸市高経年マンション外観調査

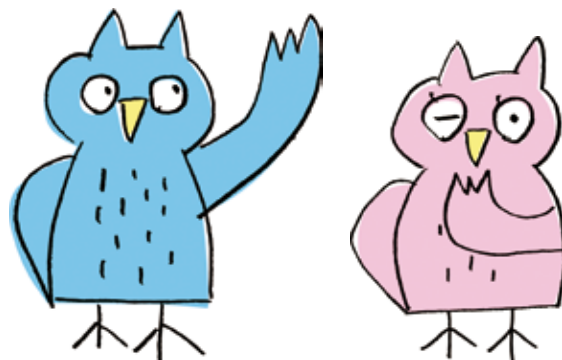
神戸市は他都市に比べて多くのマンションがあり、市内の分譲マンションは約22万戸

（約3,800管理組合）となっています。そのうち3割以上が築35年以上の高経年マンションとなっており、老朽化対策や大規模修繕工事など管理組合が主体となってマンションを適正管理することがますます重要となっています。

令和7年度は、概ね築42~45年の高経年マンションを対象に、支援の緊急度が高いマンションの有無や全体像を確認することを目的に外観調査について貴協会にご尽力いただき、約430棟ものマンションについて調査いただきました。

25年という長きにわたりご支援を賜りありがとうございます。この間に、すまいに関するニーズは多様化し、当センターに求められる役割も複雑化してまいりました。安全安心で魅力ある住まいづくりのためには、建築士であるみなさまの果たす役割はこれまで以上に重要になると考えております。

本年も引き続き、変わらぬご支援・ご協力をお願い申し上げるとともに、皆様方の益々のご発展とご多幸を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



建築物が法令違反とならないために

はじめに

消防法令においては、建物の用途、構造、規模、階数、開口部、危険物の有無などの様々な要素を複合的に考慮して、消火器、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備、自動火災報知設備などの消防用設備等の設置・維持を義務づけています。

1 重大な消防法令違反

各消防本部では、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備又は自動火災報知設備が消防法令上の設置義務があるにもかかわらず設置されていないもの、若しくはこれらの設備が設置義務のある部分の床面積の過半にわたって未設置であるもの又は機能に重大な支障があるものを重大な法令違反（以下「重大違反」という。）と取り扱っています。

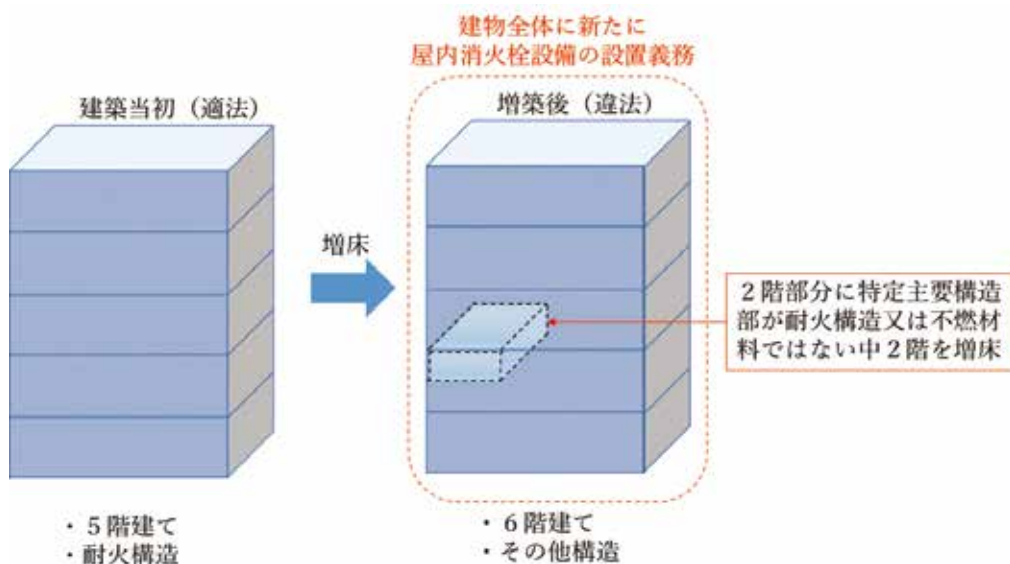
消防法令や建築基準法令には火災から建物利用者の生命、身体、財産を守るための基準が定められており、万が一、火災によって被害が発生した場合、法令違反が被害拡大の要因となれば、その設置や維持管理を怠った建物関係者が罪に問われる場合があります。また、法令に違反したまま使い続けていれば行政処分の対象となる場合もあります。

関わった建築物がそのような事態にならないためにも、建築士の皆様には、法令違反がどのような場合に発生するのか認識していただき、今後の業務に活かしていただければと思います。

2 重大違反となるケース

重大違反となるケースについては、令和4年1月31日発行の当誌第51号でご紹介させていただきましたが、今回は繁華街で最近よく見受けられる事例をご紹介します。

【増床に伴い特定主要構造部に耐火構造又は不燃材料以外のものが用いられたことで屋内消火栓設備の設置義務が生じる場合】



神戸市消防局予防部査察課

違反是正係

中野 正也

◎条例で規制のかかる屋内消火栓設備について

神戸市火災予防条例第37条第1項第2号に書かれているように、地上5階建以上の建物には延べ床面積や床面積に関係なく屋内消火栓設備の設置が必要となります。

神戸市火災予防条例第37条（屋内消火栓設備に関する基準）	
1	次に掲げる防火対象物又はその部分には、屋内消火栓設備を設けなければならない。
一	省略
二	<u>令別表第1各項に掲げる防火対象物で、地階を除く階数が5以上のもの（次に掲げるものを除く。）</u>
ア	特定主要構造部が耐火構造であり、又は主要構造部が不燃材料で造られているもので、5階以上の階の部分の床面積の合計が100平方メートル（共同住宅にあつては、200平方メートル）以下のもの
イ	特定主要構造部が耐火構造であるもので、5階以上の部分が床面積の合計100平方メートル（共同住宅の部分で壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを難燃材料としたもの並びに共同住宅の住戸にあつては、200平方メートル）以内ごとに耐火構造の床若しくは壁又は防火戸で区画されているもの
2	省略

ただし、「次に掲げるものを除く」と記載されているとおり、下記の条件に該当する場合は屋内消火栓設備の設置は不要となります。

構造部	床面積等の条件
耐火構造（特定主要構造部）or 不燃材料（主要構造部）	5階以上の階の床面積の合計が100㎡以下（共同住宅は200㎡以下）
耐火構造（特定主要構造部）	5階以上の階の床面積の合計100㎡以内ごとに耐火構造の床若しくは壁又は防火戸で区画（共同住宅は200㎡以内ごと）

3 根拠法令

上記2に関する消防関係法令等を掲載している神戸市のURLおよびQRコードを、右記に示します。

なお、掲載されている「神戸市火災予防条例の運用基準」には、条例の解釈等が記載されています。適宜見直しを行っていますので、必要に応じてご一読いただければ幸いです。



（URL）

https://www.city.kobe.lg.jp/a92906/bosai/shobo/sasatsu/setsubishidou/hourei_jourei.html

4 法令違反とならないために

建築物が法令違反とならないためにも、建築士の皆様については、建築物の所有者等から増築、改築、移転、用途変更等の依頼を受けた際、建築確認申請の有無にかかわらず、消防法令違反とならないよう、神戸市消防局と事前に相談していただくようお願いいたします。

また、新築工事を請け負う場合は、実際に建築物を利用する人の利用実態等を踏まえ、将来的に庇などの増築が必要になる可能性や開口部が塞がれる可能性などを考慮して、建築主とも十分協議した上で、重大違反とならない建築物を設計していただくようお願いいたします。

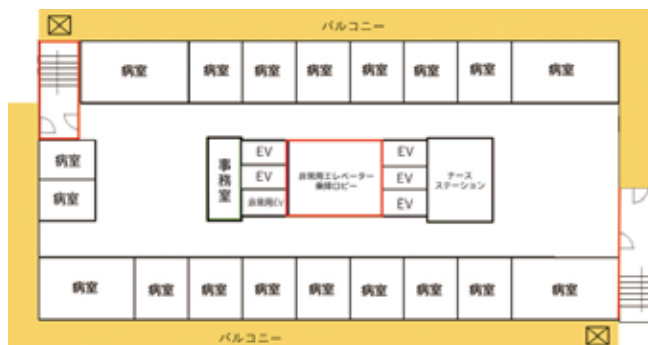
神戸市火災予防条例の一部改正について

二方向避難経路の考え方

二方向避難経路とは

ホテル・旅館などの宿泊施設、マンション・アパート等の共同住宅、病院・社会福祉施設など（以下「ホテル等」という。）において、玄関側からの避難経路に加え、もう一つの避難経路として煙等の影響を受けないバルコニーを経由した避難経路を確保するという考え方です。

常に二つ以上の避難経路を確保しておくことで、万が一の火災時にも安全な避難が可能となります。



昭和57年、東京都で30名以上の尊い命が奪われる大規模ホテル火災が発生しました。

この火災では、不完全な防火区画や、可燃材を用いた内装材等の使用により、フラッシュオーバーが頻発しました。逃げ場を失い、一酸化炭素中毒で亡くなった方もいれば、熱気と煙から逃れようと外部に退路を求めたものの、バルコニーがなかったために窓から飛び降りて命を落とした方も多く、非常に痛ましい出来事でした。

一方、昭和58年に神戸市内で発生した火災では、小学生がバルコニーに避難したことで無事に救出されるという事例がありました。このような経験を踏まえ、神戸市では昭和59年に火災予防条例を改正し、二方向避難経路の確保を義務づける条文を追加しました。

それから40年以上が経ち、現在では神戸市内の多くのホテル等にバルコニーが設置され、有事の際にも安心できるまちづくりが進められてきました。

改正概要

条例制定から40年以上が経過し、様々な法令基準が整備された昨今、市民や事業者の皆さまからのご意見を踏まえ、安全な避難のあり方について再検討するため、有識者会議を開催しました。学識経験者や関係団体の皆さまと議論を重ねた結果、神戸市火災予防条例第49条の一部を改正し、令和7年4月施行されました。

今回の改正では、下表のとおり、6,000㎡以上のホテル等において、バルコニーの設置と同等の安全性を確保する避難方策が新たに基準化されました。従来どおり、火災時の安全な避難の観点から、バルコニーを活用した二方向避難経路の確保は非常に有効です。しかしながら、バルコニーの設置が困難な場合もあることから、一定の安全性が確保された場所へ安全かつ迅速に水平避難できる方策についても、同等以上の効果があるのではないかという検討が行われました。その結果、バルコニーの設置と同等であると認められる方法として、区画を用いた水平避難を定め、建物関係者が選択できるよう、必要な規定整備を行いました。

●改正前

用途	延べ面積	スプリンクラー設備 (設置○、未設置×)	バルコニーの設置 (条例49条対象)
政令別表第1 (5項及び6項)	6,000㎡未満	○	免除
		×	対象
	6,000㎡以上	○	対象
		×	対象

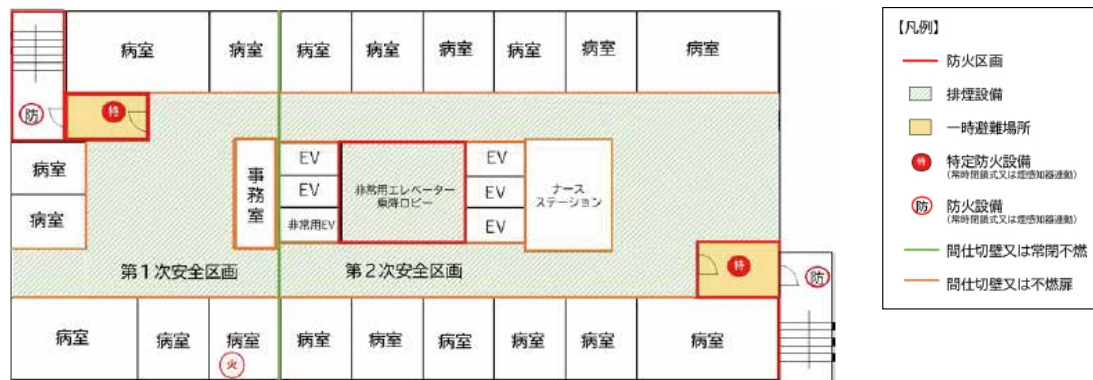
●改正後

用途	延べ面積	スプリンクラー設備 (設置○、未設置×)	一時避難場所の設置等 (設置○、未設置×)	バルコニーの設置 (条例49条対象)
政令別表第1 (5項及び6項)	6,000㎡未満	○	○	免除
		×	×	対象
	6,000㎡以上	○	○	免除(6項口を除く。)
		×	×	対象

※延べ6,000㎡以上の福祉施設(6項口)については、引続きバルコニーの設置による二方向避難経路の確保が必要になります。

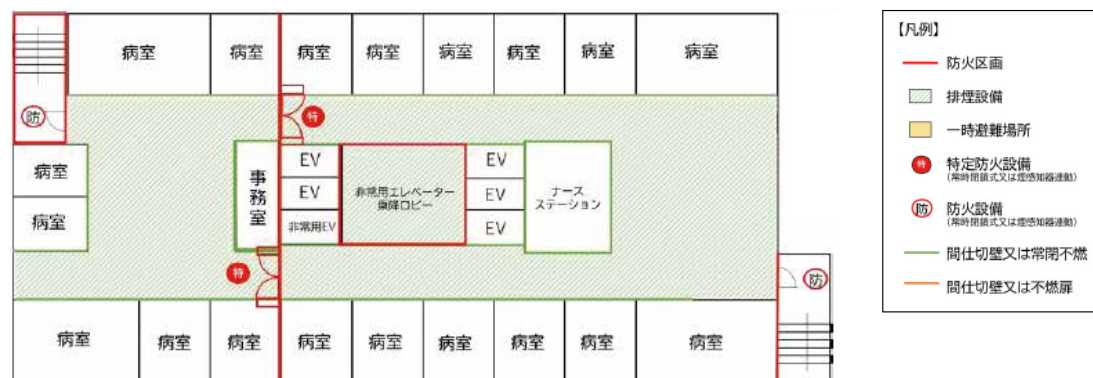
一時避難場所を設置した水平避難

火災発生時、安全に留まることができる一時避難場所を各階に設置する。また、居室と一時避難場所の間には、一時避難場所に火煙の影響が及ぶことを抑止する緩衝帯の役割と避難者が一時避難場所に至る間の避難安全性を担保することを目的とした安全区画を設定する。



平面を大きく防火区画した水平避難

平面を大きく複数の防火区画し、少ない従業員での避難誘導や車いす又はベッドで搬送しなければならない利用者について、速やかに出火区画から非出火区画へ水平避難させる。避難経路は安全区画の基準を満たすように設定する。



おわりに

今回の条例改正により、火災時の安全性を確保しつつ、建築物の意匠性や設計の自由度が高まることとなりました。これは、安全と創造性の両立を目指す神戸市の新たな一歩です。

神戸市消防局は、これからも「安全・安心なまち神戸」の実現に向けて、不斷の努力を続けてまいります。今後とも、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

神戸市突堤見学会 視察レポート

令和7年11月19日(水) 15:00～17:00

ティーハウス建築設計事務所
槻橋 久仁子



令和7年度建物見学会「神戸市突堤見学会」が、神戸支部広報研修部および青年部・女性部合同委員会の共同企画として開催されました。本見学会は、神戸ウォーターフロントエリアにおける都市再生の最新事例を学ぶことを目的とし、神戸港新港町・第2突堤地区に整備された TOTTEI PARK および GLION ARENA KOBE を視察しました。当日は、会員の皆さんを中心に 47名が参加し、関心の高さがうかがえる見学会となりました。



GLION ARENA KOBE は、令和7年4月に開業した収容人数1万人超の大規模多目的アリーナで、神戸市が進める第2突堤再開発事業の中核施設です。スポーツイベントやコンサート、国際大会など多様な用途に対応する高い汎用性を備え、神戸の新たなランドマークとして注目を集めています。海に突き出した突堤立地を前提に、建築ボリュームを分節化することで、巨大建築でありながら周辺景観への圧迫感を抑える外形操作がなされている点が印象的でした。

始めにTOTTEI PARK 内のランドマーク「TOTTEI 緑の丘」の見学をしました。ウォーターフロントに新たな公共空間を創出する象徴的な存在です。海との関係性を意識したランドスケープや、広場・緑地の配置により、港湾地区に新たな滞留と回遊を生み出そうとする意図が感じられました。1階には醸造所（ブリュワリー）と飲食スペースが配置され、令和7年6月には「TOTTEI Brewery」がオープンしています。今後、イベント等と

も連動しながら、神戸市の都心部とウォーターフロントをつなぐ回遊性に寄与する場所として発展していくことが期待されます。

「TOTTEI 緑の丘」の見学にあたっては、神戸支部のメンバーでもあり屋上緑化施工を手がけられた、株式会社大林環境技術研究所 代表取締役社長の大林武彦氏のご尽力により、設計を担当された株式会社畑友洋建築設計事務所の畑友洋氏から、計画意図やディテールについて直接ご説明いただきました。海と山の風景が一望できる場所で、シートをつまみ上げたような丘と広場が一体になった形状が特徴的で、グレーチングの階段状の素材から植物が生い茂る風景になっていきます。内部も光が入りこんだ時に、内部が光るようにシルバーで塗装されていると伺いました。軽やかに光が入り込む風景もとても印象的でした。

構造設計デザインは、かつて青年部・女性部合同委員会でも講演いただいた、構造家のtmsd萬田隆構造設計事務所の萬田隆先生が担当されています。緑化荷重や海

沿い特有の環境条件を踏まえた構造計画が、ランドスケープと一体となって成立している点が印象に残りました。

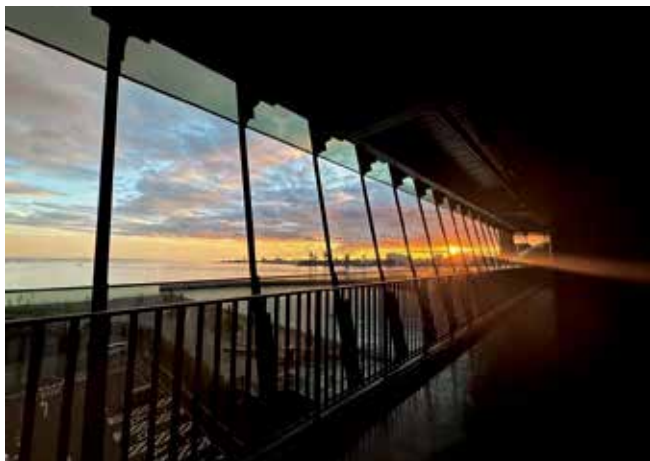
また、施工を担当された株式会社柴田工務店の方々にも駆けつけていただき、施工時に大変だった点についてお話を伺いました。三次元的な形状で同じパーツがほとんどなく、納まりの検討や製作・施工に苦勞されたという現場ならではの実感のこもったお話は、設計・施工双方の視点から学びを深める貴重な機会となりました。

アリーナ見学では、運営を担う株式会社One Bright KOBEの稲貝氏・中田氏のご案内のもと、設計を担当された株式会社大林組 設計本部 設計監理部課長の岩岡丈夫氏にも東京からお越しいただきました。内部構造はV字のテンションワイヤーを用いてアーチを構成する事で、屋根過重の軽量化と共に中央部分を低く外側を高くする事で客席に合わせて配置と共に外観も印象的な形状をつくる事ができたそうです。

普段は立ち入ることのできない選手控室やロッカールーム、選手の登場口なども見学させていただき、アリーナ内部では音響・照明・熱環境・構造に至るまで詳しい説明を受けました。どの席からも観覧しやすいよう視認性が計算されている点や、用途に応じて調整可能な音響計画など、多目的アリーナとしての完成度の高さを実感しました。

先日、神戸のバスケットチームストークスの試合を見る機会がありまして、臨場感を実感いたしました。皆様もぜひ実際に体験してみてください。

本見学会を通じて、神戸市が都心・三宮再整備で掲げる「人が主役の居心地の良いまち」を目指す方向性が、ウォーターフロントにおいても、建築・公共空間・運営が連動するかたちで具体化されつつあることを実感しました。神戸市都心部の回遊性向上に寄与する拠点としての可能性を体感できた、有意義な見学会となりました。



現代の閉塞感を打ち破る「2割開き」の聖域。 南吹田「琥珀街」に佇む「オクル本屋」

広報研修部
佐野 晴美

大阪府吹田市。かつて1970年の万博に沸き、高度経済成長の象徴となったこの街は、今、落ち着いた住宅街と古くからの町工場が入り混じる独特の景観を持っています。その一画、JRおおさか東線「南吹田駅」から徒歩約6分の場所に、異彩を放つエリアが存在します。

古い長屋やアパートが琥珀色の灯りに照らされ、まるで時空の割れ目に迷い込んだかのような風景を立ち上げている地域再生プロジェクト、それが「南吹田琥珀街（みなみすいたこはくがい）」です。なぜ、効率性と利便性を追求する現代において、その真逆を行くようなこの場所に人々が惹きつけられるのでしょうか。その建築的・思想的構造、そしてその象徴である「オクル本屋」の在り方を紐解いていきます。

建築の記憶を 「上書き」せず「積層」させる美学

琥珀街を歩くと、そこには現代の都市開発が忘れてしまった「時間の重なり」に対する深い敬意が感じられます。一般的なりノベーションが、古さを「隠す」あるいは「塗りつぶす」ことで新しい価値を付与するのに対し、琥珀街の試みは真逆です。



コンセプトは、「過去のような 未来のような 時空を超えたまち」。

例えば、この街の象徴的な建物である築年数を経たアパート「白ゆり荘」を観察してみてください。躯体はあえて剥き出しのままにされ、錆びた配管やひび割れたコンクリートの質感がそのまま活かされています。そこに、新しい木材や真鍮、パッチワークのような色彩が継ぎ接ぎ（リノベーション）として加えられています。

建物の歴史という時間軸を可視化したまま、新しい役割を重ねていく「積層」。この「未完成の肯定」こそが、完璧さを求められる現代社会に疲れた来訪者を優しく包み込んでくれるのです。スクラップ&ビルドへの静かな抵抗が、この無骨で温かいインダストリアルな空間を作り上げています。

「オクル本屋」とは？ ——想いのバトンをつなぐリレーの拠点

この白ゆり荘の一角に、琥珀色の光を漏らす一軒の店があります。それが「オクル本屋」です。運営するのは



reborn株式会社代表取締役の羽瀨彰博氏。羽瀨氏はこの場所を単なる本を売買する「小売店」ではなく、かつて大切にされていた本と、新しい読み手の心が重なり合う『思い出の交差点』として考えています。

店名に込められた「おくる」という言葉には、三つの重層的な意味が含まれています。

- 「贈る」：大切な誰かを思い浮かべ、その人の人生に寄り添う一冊をギフトとして届けること。
- 「送る」：今の自分から、未来の自分へ。あるいは、物理的な距離を超えて、見知らぬ誰かへとメッセージを届けること。
- 「遺る（おくる）」：かつて自分が大切にし、血肉となった本を、死蔵させるのではなく次の読み手へと引き継いでいくこと。

ここでは、店主が厳選した新刊や古本だけでなく、前の持ち主の想いが乗った「寄贈本」が大きな役割を果たしています。誰かの書棚で眠っていた本が、その人の記憶と共に再び旅を始める。その循環の起点として、この店は存在しています。

学校の記憶が息づく 「廃材の本棚」という物語

店内に足を踏み入れてまず視線を奪われるのは、表情豊かな本棚です。実はこの本棚、かつて小学校などの現場で実際に使われていた「学習機の廃材」を解体し、再構築して作られたものです。

よく見ると、天板には誰かが一生懸命にペンを走らせた跡や、授業中にうっかりつけてしまった傷、あるいは無邪気な落書きの跡が残っています。かつて子供たちの未来を支えていた机が、今は人々の心に火を灯す物語を載せる棚として再生（リボーン）されているのです。

建築が建物の歴史を積層させているように、この本棚もまた、日本の教育現場で刻まれてきた「学びの記憶」を積層させています。什器そのものが、おくる本屋のコンセプトを雄弁に物語るマテリアルとなっているのです。

自律的なコミュニティと 「2割開き」の哲学

現代の商業施設の多くは、綿密なマーケティングから

逆算され、誰にでも分かりやすく、入りやすい「全開」の状態設計されます。しかし、琥珀街、そして「オクの本屋」はその真逆を行います。

羽瀧氏が実践しているのは、「2割だけを開く」という独特の手法です。あえて派手な看板を掲げず、一見すると「入りにくさ」を残す、情報の欠落という「8割の閉じ」があるからこそ、隙間から漏れ出す「2割の琥珀色の光」を見つけた来訪者は、自らの意志でその扉を開けることになります。この、受動的な「客」ではなく、能動的な「探索者」として街に関わる仕掛けが、琥珀街特有の自律的なコミュニティを形成しています。ここには「オクの本屋」の他にも、Web開発者、ネイルサロン、カフェ、道具店など、自らの「純度」を保ちながら活動する「街人（まちびと）」たちが集まっています。彼らはマーケティングの波に飲まれることなく、互いに程よい距離感で共鳴し合っています。

この場所でしか味わえない、 五感を揺さぶる体験

「オクの本屋」での滞在は、視覚情報を極限まで削ぎ落とした贅沢な時間が味わえます。琥珀色の暖色照明により意図的に照度を落とした「包容力のある暗がり」が、人を内省的な状態へと導きます。さらに、音楽家・宮内優里氏の手による店内の音が、その没入感に一役を担っています。

寄贈本の中に添えられた、前の持ち主のメッセージカード。そこには「なぜこの本を次の人に読んでほしいのか」という体温のある言葉が綴られています。ネット通販では決して出会えない、見知らぬ他者の人生の一部

を分かち合う瞬間。それは、生産性を求める日常から切り離された、究極の贅沢と言えるでしょう。

あなたの「2割」をどこで開くか

南吹田琥珀街は、単なるおしゃれなスポットではありません。それは、私たちが「どう生き、どう働き、どう再生（リボーン）していくか」をそっと問いかけてくれる場所です。「オクの本屋」にあるのは、単なる中古本ではありません。学校の机がそうであったように、誰かの時間や思い出が染み込んだ「記憶の欠片」です。マーケティングに消費されず、効率の波に飲み込まれず、自分の内面にある「琥珀」のような純粋な想いを守り抜くこと。もしあなたが今の日常に言いようのない「閉塞感」を感じているのなら、少しだけ足を伸ばしてみてください。スマホを置いて、かつての教室の匂いがするような木の棚から、パッチワークのような空間と深い対話が、あなたを「本来の自分」へと引き戻してくれるはずです。

◆琥珀街・訪問ガイド◆

所在地：大阪府吹田市南吹田2丁目周辺（JRおおさか東線「南吹田駅」から徒歩約6分）

主要拠点：白ゆり荘（オクの本屋他、多数のクリエイターが入居）、琥珀街事務局

URL：<https://kohakugai.com/property/no38-n1>

楽しみ方のヒント

空間そのものを味わい、そこにいる「街人」と一言二言、言葉を交わしてみる。本を買った後は、琥珀街のカフェでゆっくりとページをめくるのがおすすめです。「オクの本屋」の営業日は公式SNS等で事前に確認することをお勧めします。





建築はもっと自由で、もっと熱くなれる—— 「有元温調・久設備設計室」というプロ集団

広報研修部 佐野 晴美

建築業界の第一線を走るプロ集団。そこには、妥協のない技術への情熱と、大人の遊び心が絶妙にブレンドされた、唯一無二の空気が流れていました。

今回は、業界誌『現代建築』でも紹介された実績を持つ、兵庫県屈指の実力派設備設計事務所、有元温調・久設備設計室を山田副支部長とともに訪問しました。

代表の有元久雄さんに、その波乱万丈な歩みと組織のあり方をじっくりと伺いました。

震災と制度改正を糧に。 設備設計のスペシャリストへの道

有元さんの経歴は、建築業界では非常にユニークなものです。元々は文系出身で、若き日はオーストラリアでワーキングホリデーを経験するなど、海を渡り自由なキャリアを歩んでいました。

海外での経験を経て帰国し、他社で研鑽を積んでいた有元さんに、人生の転機が訪れます。1995年、阪神・淡路大震災が発生。壊滅的な被害を受けた故郷の惨状を目の当たりにし、建築が持つ社会的責任の重さを痛感します。さらに家業を営むお父様が入院されたことをきっかけに、自らの足跡を家業へと記す決意を固めます。翌1996年10月、有元さんは「有元温調」へと入社。震災の

記憶と家族への想いを胸に、建築の世界で生きていく覚悟をより確かなものにしていきました。その後、業界を揺るがした「姉齒事件（耐震偽装問題）」を受けた制度改正が、有元さんの背中をさらに強く押します。

この改正により、建築設備士から一級建築士への道が拓かれ、さらに大規模建築物において「設備設計一級建築士」による法適合確認が義務付けられるなど、建物の「命」を司る設備の専門家の地位が法的に強化されました。有元さんはこの時代のうねりを逃さず、文系出身という壁を乗り越えて高度な専門性を習得。一級建築士の資格を勝ち取り、まさに時代の要請に応える形で、現在のスペシャリストとしての地位を確立されました。

「建築士はミュージシャン」 ——ドラマーとしての矜持

有元さんを語る上で欠かせないのが、音楽、特にドラムへの深い情熱です。実は有元さん、「本業はドラム」と言い切るほどの熱量を持つ凄腕のドラマーでもあります。正確なリズムを刻みながら全体のグルーヴを支え、時にはダイナミックに曲をリードするドラムの精神は、そのまま有元さんの設計哲学へと繋がっています。

「僕はよく、建築士はミュージシャンだと言って言うん

です。一曲売れないと、一生仕事にならない」

この言葉には、数多くの図面を引く中でも、一棟一棟が「人の心に響く作品」でなければならないという、表現者としての厳しい覚悟が込められています。設計も音楽も、緻密な計算の上に成り立つ「アート」であるという有元さんの視点は、機能性ばかりが重視されがちな設備設計の世界に、新しい風を吹き込んでいます。リズム、強弱、さらにハーモニー。設計図面から立ち上がる空間に、有元さんはドラマーならではの「躍動感」を求めているのかもしれません。

佐野が驚かされた、洗練された オフィスと「100周年記念トイレ」

「設備設計の事務所といえば、図面が山積みで男性ばかりがワシャワシャしているイメージだったけれど、ここは本当に綺麗！」と、佐野が驚かされるほど、オフィスは洗練された空間でした。

一歩足を踏み入ると、まず目を引くのがガラス張りの社長室です。これは有元さんの「隠し事をしない」「風通しの良い組織でありたい」という願いの現れ。スタッフとの距離感を縮め、いつでも相談ができるオープンな雰囲気が、事務所全体のクリエイティビティを底上げしています。

さらに驚いたのは、1階の来客用トイレ。なんと男性用トイレには、TOTO100周年記念モデルが設置されているのです。設備設計のプロとして、最先端かつ希少なプロダクトを自らの拠点に取り入れるそのこだわりは、訪問する同業者やクライアントを唸らせるポイント。こうした細部への徹底した美学が、事務所のブランドを形作っています。

また、印象的なのが、社員が自由に知識を広げられる図書コーナー「有元文庫」です。ここには建築の専門書だけでなく、歴史、アート、小説など、有元さんがセレクトした多彩なジャンルの本が並びます。単に技術を磨くだけでなく、豊かな教養がより良い設計を生むという有元さんの信念が、このライブラリーには凝縮されています。

溢れ出す遊び心と、クリエイティブな 提案力

有元さんの真骨頂は、その卓越した「遊び心」にあります



す。その旺盛な好奇心は、スター・ウォーズ、ディズニー、さらには日米のヒーロー文化に至るまで、驚くほど幅広いジャンルに及びます。「面白がる力」を大切にする有元さんのもとでは、建築設備という理系の極致とも言える仕事で、驚くほどクリエイティブなものに姿を変えます。

こうした多角的な視点こそが、定型的な設計に陥らない、柔軟でワクワクするような提案を生み出すエネルギーとなっているのです。有元さんの話を聞いていると、プロの仕事とはこれほどまでに自由なものだったのかと、改めて笑いと感嘆の声が上がりました。

業界の未来を、神戸から大阪へ

話題は最新技術であるBIM（Rebro）の活用や、業界特有の課題である設計料の算定方法など、プロフェッショナルな領域にも深く及びました。設計の進化に伴い、図面は手書きからCADへ、そしてBIMへと姿を変えてきましたが、有元さんは常にその変化の先頭に立ち、効率化と質の向上を両立させています。設備設計が単なる建物の「裏方」ではなく、環境性能や快適性を左右する主役の一つであることを、有元さんは身をもって証明し続けています。

現在は、大阪への営業所開設を検討されるなど（冗談かもしれませんが）、その挑戦の歩みは止まりません。事業拡大の展望を語る一方で、6月に有馬で計画されているゴルフコンペの話題になると、少年のように目を細める気取らない人柄。この「全力で働き、全力で遊ぶ」姿勢こそが、多くの人を惹きつける有元さんの魅力そのものです。

「建築は、もっと自由でいい」

そんなメッセージを体現する有元温調・久設備設計室。確かな技術力（ハード）と、ドラムのビートのように力強い情熱（ソフト）が融合したこのプロ集団から、次はどんな「名曲（作品）」が生まれるのか。これからの活躍から、ますます目が離せません。

有元さん、本日は貴重なお話をありがとうございました！



長屋の切り離し工事が孕むリスク

兵庫住宅検査
山田 亨

近年、長屋をリノベーションやコンバージョンによって利活用する事例が増え、古い長屋の価値が見直されつつある。しかしその一方で、長屋の活用方法としては、部分解体を行い、新築住宅へ建て替えるケースが圧倒的に多いのが実情である。

空き家となった長屋を不動産事業者や建売事業者が比較的安価に取得し、解体後に新築住宅として再販売する——こうしたスキームは既に確立されており、そこに求められるのは「より早く、より安く」という効率性と、利益の最大化である。

この流れの中で、私たち建築士事務所が関与するのは、多くの場合、更地となった後の新築計画設計からである。長屋の切り離し工事という、本来は建築の専門知識が強く求められる工程に、建築士が関与する機会は決して多くない。

建築士が不在のまま進む切り離し工事

私の事務所では、過去にトラブルを経験した事業者や、身近で問題を見聞した関係者からの依頼を受け、解体前の段階から長屋に関わることがある。また、ここ1、2年は、弁護士と連携しながら、長屋の解体・切り離しを巡る案件に対応する機会が続いている。

そうした中で強く感じるのは、最も建築的な判断が求められる工程ほど、建築士が不在のまま進められているという現実である。

解体前の調査で分かること

解体前の調査において小屋裏や内部を確認すると、外観や表面からは想定することができない状況が見つかることがある。

過去に増改築が行われた形跡が確認され、小屋裏に古い屋根下地が残存している例も見られる。現況の小屋組は、その上から重ねるように施工されており、切り離し工事を行う場合には、小屋組のやり替え（再構築）が必要となることもある。

また、梁の上部に界壁が存在せず、天井裏の空間が隣戸と一体となっているケースも少なくない。



築70年以上の長屋

長屋や文化住宅と呼ばれる建物は、多くの場合、区分所有法に該当する建物であり、壁や屋根、梁などの主要構造部は共用部分と評価される。これらは、たとえ一住戸を単独で所有していたとしても、自由に解体や変更ができるものではない。

しかし、事前調査や構造の理解が不十分なまま工事が進められると、こうした隠れた問題点が見落とされてしまう。

無計画な切り離しが生む問題

切り離し工事が進行する中で、共有していた構造部材が途中で切断され、残存建物側に不自然な納まりが生じる例も見受けられる。



解体部の隣接住戸の小屋裏
梁や棟木、母屋の仕口・接合部（接手）の状況確認。
仕口・接合部（接手）の位置や上下関係によっては構造的な補強が必要となる場合がある。

このような状態は、耐震性や防火性能の低下を招くだけでなく、将来的な維持管理や補修の負担を増大させる。そして何より、隣接する所有者との紛争へと発展する可能性を強く孕んでいる。

実際に裁判となった事例では、長屋の一部解体によって残存建物に不利益が生じたとして、工事の適法性や損害賠償責任が争われている。裁判所は、登記上の所有関係だけでなく、構造の一体性や他の区分所有者への影響を重視し、切り離し工事の自由を大きく制限する判断を示している。

なぜ紛争に発展するのか

長屋の切り離し工事を巡る紛争では、「誰がどこまで解体できるのか」という権利関係に加え、工事によって他の所有者にどのような影響が生じたのかが重要な判断要素となる。

裁判例では、構造の一体性、耐震性への影響、防火・防水性能の低下、さらには将来的な修繕負担の増加といった点が総合的に評価され、建築的な判断そのものが法的責任の有無を左右することになる。

弁護士との協業が持つ意味

こうした背景から近年、長屋の切り離し工事においては、弁護士と協業する必要性が高まっている。建築士が構造や性能の観点から「何が起こり得るか」を整理し、弁護士がそれを「どこまでが許容され、どこからがリスクか」という法的枠組みに落とし込むことで、紛争を未然に防ぐことが可能となる。

建築士が関与する意味

長屋の切り離し工事は、単なる解体工事ではない。それは、解体でありながら、設計行為に近い判断を伴う工事である。

「より早く、より安く」という論理の中で見過ごされがちな部分にこそ、建築士が関与する意義がある。構造、法規、将来の維持管理まで見据えた判断が、長屋という建築ストックを次世代へとつないでいくために求められている。

建築家・安藤忠雄の到達点： 淡路夢舞台の建築空間を解読する

広報研修部
佐野 晴美



兵庫県淡路市、大阪湾を望む斜面に広がる「淡路夢舞台」は、建築家・安藤忠雄のキャリアにおける一つの集大成であり、21世紀の建築が向き合うべき「環境との対話」を具現化した記念碑的作品です。2000年に竣工したこの広大な建築群は、単なる機能的な複合施設を超え、震災からの復興、自然の再生、そして人間の精神性の回復をテーマとした壮大なランドスケープ・アーキテクチャとして君臨しています。

本稿では、建築的視点から淡路夢舞台を四つの主要な軸で解読し、その空間が持つ真の価値を浮き彫りにします。

環境再生という「建築の使命」

淡路夢舞台の物語は、建築が建つ以前の「環境破壊」から始まります。この地はもともと、関西国際空港などの巨大プロジェクトのための埋め立て土砂採取場として、山肌が剥き出しにされた「禿山」でした。安藤忠雄氏は、この無残に削り取られた土地を目の当たりにし、建築を建てることと同等、あるいはそれ以上に「失われた自然を再生させること」を設計の核に据えました。

安藤氏は、工事に先駆けて約25万本もの苗木を植え、



土地に再び生命を宿らせることから始めました。ここでの建築は、土地を支配する存在ではなく、自然が再生していくプロセスを支え、人々がその変化を五感で享受するための「舞台」として定義されています。これは、近代建築が往々にして行ってきた「自然を排した抽象空間の構築」に対する、安藤氏なりの力強い反論でもあります。

空間の核となる構成要素：

幾何学と自然の交錯

夢舞台の空間は、安藤建築に特徴的な「円」「正方形」「直線」といった純粹幾何学が、複雑な地形と交差することで構成されています。

百段苑（ひゃくだんえん）：

斜面に刻まれた祈りのグリッド

夢舞台のシンボルとも言える「百段苑」は、山の斜面に沿って4.5メートル四方の花壇が100個、階段状に配置された巨大な庭園です。



幾何学的秩序：自然の不規則な斜面に対し、厳格なグリッドを被せることで、人間と自然の境界線を鮮明に描き出しています。

鎮魂の意：1995年の阪神・淡路大震災の犠牲者への供養として設計されたこの場所は、100の祈りが空へと昇っていくような垂直性の意識を感じさせます。

風景のフレーミング：階段を一段ずつ登るにつれ、背後に広がる大阪湾の水平線と、手前の花壇のグリッドが重なり合い、視覚的なパースペクティブが劇的に変化します。

円形フォーラム・楕円フォーラム：光と影の劇場

安藤建築の真骨頂であるコンクリート打放しの壁面が、巨大な空洞を形作るエリアです。

空間の断絶と接続：垂直に切り立った壁が空を丸く切り取り、訪れる者は都市の喧騒から切り離され、空の青さと光の動きだけに集中することを強いてきます。

迷宮的ダイナミズム：複数のスロープや階段が複雑に絡み合う構成は、イタリアのピラネージが描いた「幻想の監獄」を彷彿とさせますが、そこには常に「光」という出口が用意されています。



水の演出：流動する建築

「水の教会」や「光の教会」で知られる安藤氏ですが、夢舞台では「音」としての水を多用しています。

貝の浜：100万個のホタテの貝殻を手作業で敷き詰めた浅瀬を水が覆うこの空間は、リサイクルという環境的側面を持ちつつ、太陽光を反射して建築に細やかな揺らぎを与えます。



水の階段と滝：建築の各所に配置された水の流路は、視覚的な涼しさだけでなく、水音によって周囲の雑音を消し去る「サウンドスケープ」として機能し、空間に瞑想的な静寂をもたらします。

震災復興と「構造」の精神性

淡路夢舞台は、建設の途上で阪神・淡路大震災に見舞われました。この出来事は、プロジェクトの性格を「環境再生」から「震災復興と鎮魂」へとより深く深化させることになりました。

断層との共存：敷地内に野島断層が通っていることが判明した際、安藤氏は計画を白紙に戻し、断層を避けるように建物を再配置しました。これは自然の脅威に対する建築家の敬意と、安全への執念の現れです。

ランドスケープとしての構造体：建物としてのボリュームを主張するのではなく、建築の多くを地下や斜面に埋没させることで、大地の延長線上に空間を構築しています。これにより、地震による揺れの影響を最小限に抑えると同時に、山全体が巨大な一つの建築物であるかのような一体感を生み出しています。

建築家・安藤忠雄のマニフェスト

夢舞台を歩くと、安藤氏が提唱する「身体的体験」の重要性が痛いほど伝わってきます。現代の建築が効率や快適性を追求する一方で、夢舞台はあえて「歩くこと」「階段を上ること」「風に曝されること」を要求します。

コンクリートのスリットから差し込む鋭い光、壁に反射して増幅される水の音、そして指先に触れる冷たいコンクリートの質感。これらすべては、デジタル化された現代社会で麻痺しがちな人間の「身体感覚」を呼び覚ますための装置です。安藤氏は、建築を単なる「入れ物」ではなく、人間の精神を研ぎ澄ますための「修行の場」あるいは「聖域」として設計しているのです。

展望：21世紀における夢舞台の価値

完成から20年以上が経過し、安藤氏が植えた苗木は豊

かな森へと成長しました。かつての禿山は緑に覆われ、建築は文字通り森の中に「埋没」し始めています。これは、建築が完成した瞬間がピークではなく、時間をかけて自然と一体化していくという、安藤氏の目指した「時間軸を持った建築」の勝利と言えるでしょう。

また、夢舞台に隣接する「あわじグリーン館（旧・奇跡の星の植物館）」との連携により、人工的な温室空間と開放的な屋外空間が対比され、植物と建築の関係性を多角的に学ぶことができる点も、このプロジェクトの類稀なる特徴です。

風景としての建築の完成

淡路夢舞台は、安藤忠雄という個人の作家性を超えて、この土地が持つ歴史、震災の記憶、そして再生への意志が結晶化した場所です。

そこにあるのは、強固なコンクリートという「人工」が、流動的な水や光、成長し続ける緑という「自然」にひれ伏し、同時にそれらを美しく引き立てるという、奇跡的なバランスです。私たちがこの場所で体験するのは、単なる美しい景観ではなく、人間が自然の一部としてどうあるべきかという、根源的な問いに対する「建築という形での回答」なのです。

この「風景としての建築」は、今後も淡路島の地で、訪れる人々に静かな感銘を与え続け、時代が変わっても色褪せない「空間の力」を証明し続けることでしょう。



「関・伊勢・多気」の町めぐり研修

日時：2025年10月26日(日)～27日(月) 参加者：23名

姫路支部 SEAarch 赤沼 美佐代

三宮神戸市役東隣の公園前にて集合。兵庫建築士事務所協会に入会し、まだ初めてお会いする方が多いこともあり少し緊張していましたが、全国大会や大阪・関西万博見学会で一緒させていただいた方々ともお会いし緊張もほぐれ、期待が膨らむ中で旅が始まりました。

今回の旅では、伊勢神宮内宮の特別参拝ができること、そして神楽殿で舞の奉納を拝見するために、正装の準備を万端に整えて参加をしました。バス内では早速後方席に特別サロンが設置され、和気あいあいと楽しさいっぱいの旅が始まりました。

まず、最初に「関宿」に到着。東海道五十三次のうち江戸1番の品川から数えて47番目の宿場です。現在の三重県亀山市にあります。亀山市にはこの他に一つ手前の亀山宿と一つ後の坂下宿の3つの宿場があります。現在、旧東海道の宿場町のほとんどが旧態をとどめない中、唯一歴史的まちなみが残る場所で国の重要伝統的建造物保存地区に選定されています。以前に訪れたことのある中山道の妻籠宿や奈良井宿の面影と重なるところがありました。屋根が板葺きであった奈良井宿とは異なり瓦屋根で当時豊かに栄えた様子が伺えます。歴史資料館となっている「旅籠玉屋」と伝統的な町家を公開した「まちなみ資料館」を見学しました。まちなみ資料館の

蔵内の展示では、保存と修復の町並みの移り変わりが展示されており、どのように保存されてきたかがわかります。古い町並み200件あまり、趣ある町並みにはゆったりとした時間が流れていました。

昼食には松坂牛陶板焼きを味わいました。そしていよいよ伊勢神宮へ。1日目には山田原にある豊受神社大神宮（外宮）へ参り。翌日には五十鈴の川上にある皇太神宮（内宮）へ向かいました。

外宮では、火除橋を渡りお清めした後に天照大御神のお食事を司る豊受神社大神宮を参拝。豊受神社大神宮は衣食住をはじめあらゆる産業の守り神です。バスガイドさんから参拝の注意の通り、正宮ではお願い事はせず「おかげさまでこの場所を訪れる事が出来たことへの感謝」の意を伝えます。神明造の正宮は萱葺屋根とその上に伸びる千木、屋根を抑える鰹木が印象的です。隣接する古殿（新御敷地）と、その周辺は特に空気がとても神聖に感じられました。別宮「土宮」、「風宮」、「多賀宮」お参りし、御朱印をいただき外宮を後にしました。

翌日は、いよいよ皇大神宮（内宮）天照大御神を参拝します。

宇治橋鳥居をくぐり五十鈴川を渡って、かつては神職の屋敷が立ち並んでいた神苑を歩いて行くと、足音とと





もに特別参拝への期待が高まって行きます。正宮にたどり着くと30段ほどの大きな深緑色の美しい石段があります。後で調べたところ、この石段は群馬県産の「三波石」と呼ばれるものでした。石段を登ると正宮の玉垣と殿舎が見えてきます。

特別参拝（御垣内参拝）は、脇の木戸から入り一般参拝よりも一つ奥の垣中重鳥居のある場所で参拝します。

「清めの塩」でのお祓いがあり、神職の方の案内で「中重（なかのえ）」に進みます。皆で一列に並び代表に合わせて参拝をしました。

その後、神楽殿にてご祈祷と御神楽です。「修祓、献選、祝詞奏上、舞楽奉奏、倭舞、人長舞、納曽利（右舞）、最後に拝礼」東京より兵庫県へ本店移転をし、節目になるお参りができました。

天照大御神の荒御魂を祀る「荒祭宮」を参拝し、これからの兵庫での人の繋がりやこれからの仕事のことなど今の自分と向き合う良い時間を過ごすことができました。

た。神宮内でゆっくりと時間を過ごし、おかげ横丁入り口で土産を購入し、十分に伊勢を楽しみました。

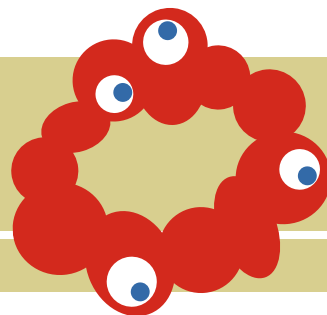
研修旅行の最後は、三重県の大津市にある「VISION」を訪れました。農村エリア、オーガニック農園の野菜が楽しめるレストランにて昼食。その窓からは遠くの山並みが見える雄大な自然が広がっていました。山並みにそって作られた商業施設には、ホテル、地域食材を生かした飲食店、和ヴィゾン、（みそ、しょうゆ、酢、みりんなどの店）、木育エリア、アトリエヴィゾンなどがあり、短時間では見切れないほど様々な施設が広がっており、その多くが木造建築でできていました。また改めてじっくり建物を見るのも面白そうでした。

いずれの場所も興味深く、学ぶことの多い濃厚な1泊2日の研修旅行でした。神戸支部の皆様と楽しく有意義な研修旅行ができたことにとても感謝しています。

大阪・関西万博 日本館

2025年8月5日(火)

株式会社佐伯設計 阿路川 美香



この度、2025年度 神戸支部の日帰り研修として開催された、大阪・関西万博の日本館見学に参加させていただきました。日本館は、その斬新なデザインと「いのちの循環」というテーマから特に注目度が高く、予約が困難なパビリオンとして知られていたため、今回、実際に訪問できたことは、大変貴重な経験となりました。

まずその外観に圧倒されました。

報道などで予備知識はあったものの、CLTの高さや円環状に並べられた量感は想像以上でした。CLTは再利用を前提としており、できるだけ最大サイズで、かつ、表面を傷つけないように使用されているとのことでした。また、単なる装飾材ではなく、構造耐力壁として機能している点にも深く感銘を受けました。まさに、「建

築そのものが展示」であり、その美しさが印象に残りました。

展示内容は、「ごみから水へ」「水から素材へ」「素材からものへ」という循環の流れを体験できる構成です。

左の写真は、ゴミを発酵させるタンクをモチーフにした光のガーデンで、躍動する微生物をイメージしています。

1階の展示を2階の吹き抜けから見下ろす構成となっており、歩きながら循環を体感できる工夫が施されていました。

万博会場で実際に発生したゴミを微生物が分解し、電気や純水に変える様子を見ることが出来ます。

その後、日本館の中心に位置する水盤へと導かれます。



この水盤は、微生物によって浄化され、ほぼ純水となった水がたたえられています。空が大きく開けた静謐な空間で、とても暑い日であったにもかかわらず、一瞬暑さを忘れるほどのこちよさでした。

ここでも、CLTの存在感が際立ち、建築的な魅力を強く感じました。それにしても、この水が、ごみから生まれ、日本館で浄化されたものだということには驚きです。

その後は、話題となっていた火星の石や、藻をテーマにした「藻キティちゃん」の展示へと続きます。32種類のハローキティが並ぶ展示には思わず気分が上がりました。

日本館の最後には藻を使ったフリーズドライの味噌汁が配られました。後日いただきましたが、とてもおいしかったです。

「循環」をテーマとした日本館でしたが、やはり万博の象徴である大屋根リングや日本館の木材利用には特に心を奪われました。

暑い中、約40名が参加する研修となりましたが、万博を研修先を選んでいただいたことに大変感謝しております。持続可能性を前提とした設計は、今後の建築に欠かせないテーマであることを再認識し、今回の研修はその重要性を改めて考える貴重な機会となりました。

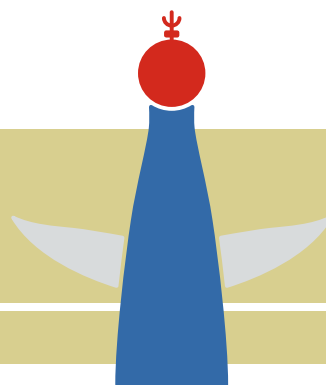
ありがとうございました。



大阪・関西万博 日本館

2025年8月5日(火)

事業厚生部 阿部 宏明



今年の日帰り研修は、8月5日「大阪・関西万博見学」を企画しました。参加は総勢39名、沢山の方がご家族もご一緒され、いつもより賑やかな研修開会になりました。

今回は現地集合でしたので10時過ぎに万博会場に入場、すぐに「ちょっと奇妙なミャクミャク」のお出迎えを受けて「やっぱり不気味や…」と思いつつ集合場所へ急ぎます。

「お～！もうこんなに人が溢れてる…」ようやく回り込んで到着した日本館は、木版を円環状に廻らした美しい外観！なかなかのものです「ホ～…」としばし余韻を楽しみつつ、支部長ご挨拶の後は皆さん揃っての集合写真。11時の予約時間が迫り館内へとむかいます。

説明や展示物を見ながら循環社会・バイオマス…火星の隕石やイトカワの砂…と人の流れに乗って進んだら、はや出口「はて？記憶に残っているのは…」最後に会ったキティーちゃん、手に残った「スピルニナのスープ」…あっという間の1時間です。

日本館を出て再集合した後は賛助会員の大林さんが手掛けた緑化施設を目指して移動開始。支部旗を先頭？に大人の行進はバラバラに進みます。「みんなはぐれないで！」大屋根リングを反時計回りに1/4周、人波を避けつつ見上げる大きな木組みは圧巻です。大したものです!!でも古社寺の木組みをイメージしていた私「あーやっぱり機械式！」正直とちょっと残念！「宮大工だったらほんまレガシーやろなー」「知らんけど…」と思ったのです。

緑化施設の説明を受けた後は解散！自由見学で皆さん思い思いの施設へ。予約を取られていた方、待ち時間無しのところから、やっぱり昼食が先！とその後の行先は様々で、掲載の写真通り小グループに分かれての見学会になりました。特に予約もしていない私、パビリオン見学はそこそこに大屋根リングに上がり内側のパビリオン展望しつつ1周。360度大阪湾からの眺めを楽しんで外

側をもう1周。この眺望は絶品!!と思ったのですが、もう十分な猛暑にさらされて1.5周でギブアップ！真夏の陽射しは厳しすぎました。

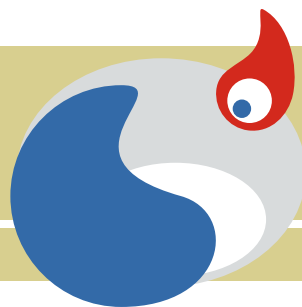
後半が自由見学といつもとは異なる企画でしたが、あとで皆さんが存分に万博を楽しまれたとお聞きしホッと肩の荷が下りました。それにしても皆さんタフです。特にドローンショーも花火も堪能されたグループ皆さん凄過ぎです！ほんとうにお疲れさまでした！



大阪・関西万博

2025年8月5日(火)

(株)エネ・グリーン大阪支社 祖父江 綾子



2025年8月5日(火)、大阪・関西万博日帰り研修に参加させていただきました。

大阪・関西万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げられており各国のパビリオンが並ぶなか、とても人気で予約が取れないと話題になっていた〈日本館〉に皆様と入場させていただき大変貴重で思い出に残る一日となりました。

日本館で印象的だったのは、日本の伝統と最新の技術が一つになっている点です。昔から大切にされてきた「自然とのつながり」や「命を尊重する心」などの考え方が、デジタル技術や映像を使った体験型の展示と組み合わせられており過去の文化を守りながら、新しい技術で未来をつくろうとする日本らしさが表現されているように感じました。

本館の建物自体にも日本らしさが込められていることが伝わり、木材を使った温かみのあるデザインで青空と美しい日本館のきれいな写真を撮ることができて嬉しかったです。

世界でも最大級の木造建築と言われ、話題になった大屋根リングは想像していたよりも大きく（外周は約2km）、迫力があり驚きました。ライトアップされた夜の幻想的な光の輪も素敵でした。

万博で見た新しい技術や世界の文化は、未来への興味や期待を膨らませてくれたと思います。

半年間で閉幕するのは残念ですが、限られた期間だからこそ印象深いものになりました。



〈大屋根リング〉



技術研修会活動報告

賛助会副代表幹事
エスケー化研(株) 藤谷

コロナ過で賛助会が正会員への企業PRや交流が思うように行かない時期に製品等を紹介できる場として、賛助会技術研修会が始まりました。

第1回目は2022年(令和4年)12月14日に開催しました。

以後、今日までの実施した企業様及び内容を下記に報告します。

開催一覧

回	年月日	発表会社名	発表内容	発表者	参加人数
1	2022 12/14	(株)LIXIL	〈水まわり〉「ニューノーマル時代の『パブリックトイレ』づくり」	橋本奈美子様	会場参加14名 ZOOM参加1名 交流会参加9名
			〈ビルサッシ〉「ZEH-Mにおける強化外皮性能基準に対応した開口部のご提案」 「サッシ新色のご紹介」	宮崎 孝様	
		ケイミュー(株)	「新工法：LAP-WALLのご紹介」	西宮隆仁様	
2	2023 2/17	福井コンピュータアーキテクト(株) (株)建築資料研究社日建学院神戸校	1. 建築試験及び出版事業のご紹介 2. システム事業のご紹介(建築BIM加速化事業の新設) 3. 省エネ法緩和解除に対する対策ソフトのご紹介 4. インボイス制度導入に伴う見積作成対応 5. 各ブースに分かれての体験研修(小グループ制：所員の方の参加推奨)		会場参加15名 ZOOM参加4名 交流会参加8名
3	4/26	エスケー化研(株)	1. 〈塗料の基礎編〉 2. 〈令和4年公共工事標準仕様書の重要改正点〉 「長寿命化を推奨するポイントの説明」 3. 〈持続可能な塗料及び意匠性製品の紹介〉	佐藤雅気様	会場参加19名 ZOOM参加5名 交流会参加15名
		(株)北村鉄工所	1. 「マンション玄関ドア改修の最新事情について」	上野博之様	
4	6/28	(株)桐井製作所	1. 天井について 2. 法規・指針等 3. 耐震天井の考え方 4. 桐井製作所の天井		会場参加13名 ZOOM参加5名 交流会参加11名
		(株)ナガワ	1. 〈ナガワ会社概要〉 2. 〈ナガワ製品紹介〉ユニットハウス・モジュール建築 3. 〈モジュール建築施工事例集※一部iPadにて4分動画視聴〉		
5	8/22	菱電エレベータ施設(株)	1. 会社概要 2. 昇降機の基本知識(初級編) 3. 製品紹介		会場参加20名 ZOOM参加5名 交流会参加16名
		(株)リークス開発	1. 会社概要 2. 地盤調査について 3. 地盤補強工事について		
6	10/27	小松ウオール工業(株)	1. 会社概要 2. パーティションの基礎知識 3. 製品紹介		会場参加9名 ZOOM参加3名 交流会参加9名
		日成ビルド工業(株)	1. 会社概要 2. 製品紹介(システム建築、パーキング) 3. 建設業界の課題とシステム建築について		
7	2024 2/27	ジャパンパイル(株)	1. 基礎の概要 2. 杭製品について 3. 杭の施工の流れ		会場参加13名 ZOOM参加4名 交流会参加11名
		積水ホームテクノ(株)	1. 会社概要 2. 介護市場について 3. 介護ユニットバスwells製品について		
8	4/16	福井コンピュータアーキテクト(株)	1. 法改正に備える為の設計・申請ポイント ～2023年 ZEH 水準省エネ義務化を見据えて～ ～ZEH 水準住宅で105角の柱が使える境界線～ 2. 法改正にむけたCAD活用術とBIM 動向	ハウスプラス住宅保証株式会社 都出卓男様	会場参加12名 ZOOM参加9名 交流会参加7名
9	7/19	セイキ販売(株)	セイキ販売株式会社 商材のご案内 ※網戸、スクリーンの基礎知識ほか	井上達也様	会場参加14名 ZOOM参加8名 交流会参加13名
		エスケー化研(株)	1. 発泡性耐火被覆材とその他湿式耐火被覆材の活用	小西克典様	
10	10/30	(株)カンキョーパースンズ	1. 基礎のひび割れや、コンクリート強度を保つ方法及び、アラミド繊維を活用した基礎補強の効果について 2. 既設物件に対するグラスウールを使用した、非破壊での床下断熱の施工及び効果 3. 節水設備が引き起こす配管トラブルの傾向と対策	植田様 道原様 山中様	会場参加25名 ZOOM参加4名 交流会参加24名
		棚田建材(株)	大規模改修工事の基礎知識と防水・塗装改修工法について	橋本 悟様	
11	2025 2/25	久保田セメント工業(株)	1. 「弊社の舗装材の製品紹介と施工事例について」 2. 「舗装材の施工後のクレームとその対処事例について」	富士様 石原様 前川様	会場参加24名 ZOOM参加2名 交流会参加15名
		兵庫住宅検査	神戸市「建築課との共同による空き家活用促進事業」の活用方法と活用事例	山田 亨様	
		(株)田村コピー	1. 「コピー業界の製品やサービスの動向」	大西真易様	
12	6/25	キャノンマーケティングジャパン(株)	2. 「昨今のサイバー攻撃やウイルス対策」	菊池様	会場参加29名 ZOOM参加1名 交流会参加26名
		エスケー化研(株)	1. 「業界初 バイオマスマーク認定 植物由来の塗料を開発」 製品名：エスケーバイオマス無機GR 2. 「遮熱塗料(高日射反射率)」 3. 「ウレタンフォームの不燃化工法」 製品名：セラタイカ2号U	井上様 小西様	
13	9/29	一級建築士事務所 YURI DESIGN	1. 人と環境に負荷の少ない家づくり 2. 実際のご自宅見学(人と環境に負荷の少ない家づくり)	前田由利様	会場参加17名 ZOOM参加0名 交流会参加12名
		(株)カンサイ	1. 小野工場見学 2. 黒板説明(カンサイ) 家具説明(ヤガミ)	松尾様 住本様	

技術研修会風景(2025年)

第11回 久保田セメント工業(株) 会議室



交流会



第12回 御影公会堂



前田由利様邸 草屋根見学



交流会



第13回 (株)カンサイ様／小野市うるおい交流館



株式会社カンサイ様 工場見学

小野市うるおい交流館にて技術研修会

最後に

技術研修会は賛助会が商品や会社のPRをする機会を設け、正会員様に知っていただき、双方の仕事に繋がるようにと企画されています。また、正会員様も時々発表をして頂いております。

技術研修会の成功は多数の参加者があって意義があり、成功に繋がります。従って、建築設計事務所協会会員の全員が主役です。各企業さんの製品等紹介によりお仕事の機会が増える事を望み、集まることで人間関係が向上することを目的としています。これからも継続していきますので益々のご協力をお願い申し上げます。

津田アジトⅡ 一級建築士事務所 YURI DESIGN



草屋根と外観



キッチンから海を見る。



寝室

Concept

景勝地「津田の松原」から続く松林は穏やかな瀬戸内海を望む美しい入り江を囲み気持ちよい散歩道となっている。敷地はその目の前でもともと水産加工場倉庫があったところ。

ここを終の棲家として都会から移住する夫婦と猫のための家を計画。

海を楽しむための道具や車中泊しながら旅を楽しむ車を格納するスペースを内包する、ワンベッドルームのコンパクトな平屋でいわゆる玄関が無い。

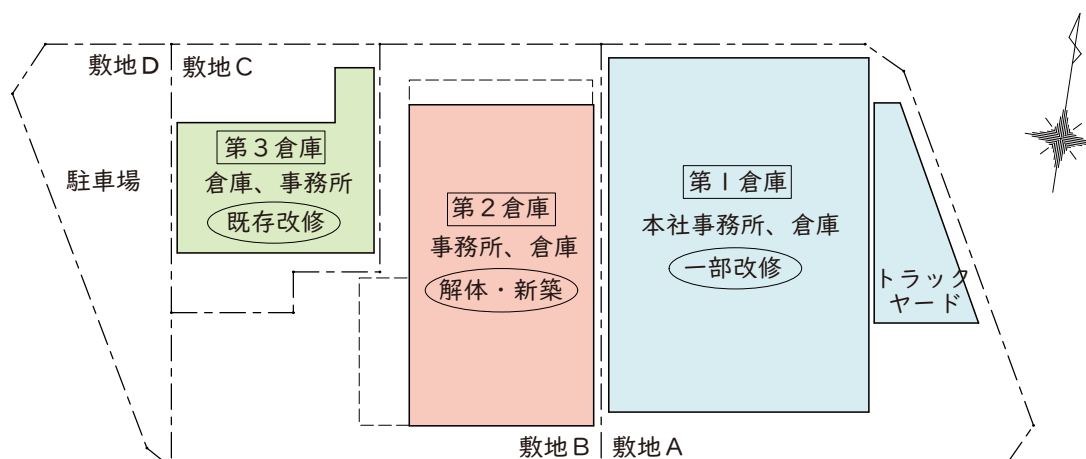
ロフトの上は草屋根になり、夏の日射から家の温熱環境を守るとともに、屋根からは海や山、静かな集落の麓を眺めることができる。

焼杉が貼られた外観は後ろの山にすっぽり隠れて、草屋根以外は目立たないつつましい景観となった。



所在地 香川県さぬき市
用途 専用住宅
構造 木造在来工法 平屋建て
敷地面積 463.58㎡
のべ面積 74.54㎡

丸正建設株式会社一級建築士事務所





Concept

既存本社敷地（敷地A）の西側敷地（敷地B、C、D）の借地権を得た事による区画一体での事業を施主様と協議し、敷地Bに建っていた事務所と倉庫を解体後36mスパン、西側10m、北側5mの持ち出し庇を備えた第2倉庫を新築。

土間床の第1倉庫と高床の第2倉庫を結ぶ10tフォークリフトが走行可能な鉄骨スロープや第1倉庫側から本社職員や来客が利用可能なカフェ風の休憩室を設けた。

低コスト、短工期といったシステム建築のメリットを活かしつつ施主様独自のご要望にどこまでどのように応えられるか検討、調整を繰り返し、ご満足いただける建物が完成した。



物件名	五洋ロジテム株式会社様 神戸物流センター第2倉庫新築工事
設計監理	丸正建設株式会社一級建築士事務所
施工	丸正建設株式会社
建築場所	神戸市灘区摩耶埠頭
工期	2023年10月 - 2024年4月
構造規模	鉄骨造平屋建
建築面積	2706㎡
延べ面積	2764㎡

兵庫三菱自動車販売株式会社神戸本店

Concept

兵庫三菱自動車販売株式会社神戸本店の建て替え新築工事です。1階はサービスレセプションとサービス工場、エスカレータで2階ショールームへ。天井はスケルトン天井で空間に広がりをもたせ、ワンポイントとしてデザイン照明を組み込みました。ハンドオーバー（納車・商談）はコンセプト毎に壁面タイル、家具を選び4つの空間を形成しました。3階は中古車のショールームと将来の本社機能を持たせた事務所空間になっています。

設計監理 株式会社創建設計事務所 佐川 圭
施 工 大和ハウス工業株式会社神戸支店
建築場所 神戸市長田区
竣 工 2025年 3 月
構 造 S 造地上 5 階
延床面積 べ面積 9,360.95㎡





ボウリング大会

2025年2月12日(水)

丸正建設株式会社一級建築士事務所 森脇 匠一



楽しそう、いつか参加したいなと思っていたボウリング大会、平日夕方からの開催となった事もあり昨年やと都合がついて申し込みしたものの、一緒に参加予定の娘が直前にコロナとインフルのダブル感染のため急遽キャンセルさせて頂き大変ご迷惑をおかけしました。それから一年が経って今回、妻、長女（高3）、次女（小6）と共に参加することが出来ました。

学生時代に部活仲間や先輩後輩と何度か行ったものの、前にやったのは何年前だったかな？くらいの感覚。曲げるような高等テクは持ち合わせておらず、重めのボールで慎重に狙いを定めてまっすぐ投げる自分のスタイルを思い出しながら、ストライクを数回とスペアをちょこちょこ、元部活の後輩である妻も以前と同じような感じでスコアを重ねました。

娘たちはボウリングの経験がほんの数回ですが、次女にはガーターレールもご用意頂いたおかげで皆楽しくプ

レーさせて頂きました。

他のレーンに目をやれば、普段穏やかな先生方がガチモード！ブームの世代なのですね。普段と違う一面が見られて面白かったです。

部門分けやガーターレールのおかげで、妻が女子の部で準優勝、次女がまさかの14歳以下の部で優勝！ありがとうございました！

妻：「家族と三宮でボウリング出来て新鮮で楽しく、事務所協会の方々の雰囲気も分かって嬉しかったです。また参加したいです」（出来過ぎたコメントやな）

長女：「私だけ賞品もらえなくて空しかった」（JKは現金やな）

次女：「賞品がうれしかったしジュース飲み放題がよかった」（小6はまだかわいいな）

ついでにカラオケもしたかったな〜と話しながら楽しく帰路につきました。



ゴルフ同好会 KJ 会

ゴルフ同好会では、神戸支部の正会員・賛助会員だけではなく、他支部の会員も交え年4回（3月、6月、9月、12月）のコンペを開催しております。

今年の6月は第230回の記念会を予定しておりますので、皆さん奮ってご参加下さい。

令和7年活動報告

第225回

日 時：令和7年3月12日(水)
場 所：有馬カンツリー倶楽部
参加者：17名

優勝：中村 彦志
2位：黒田 桂介 3位：有元 久雄

第226回

日 時：令和7年6月12日(木)
場 所：北六甲カントリー倶楽部
参加者：19名

優勝：山田 亨
2位：嶋田 泰宏 3位：稲垣 謙一

第227回

日 時：令和7年9月10日(水)
場 所：センチュリー三木ゴルフ倶楽部
参加者：19名

優勝：北村 憲司
2位：成田 智一 3位：稲垣 謙一

第228回

日 時：令和7年12月11日(木)
場 所：ロータリーゴルフ倶楽部
参加者：15名

優勝：川崎 史
2位：前田 信行 3位：仲谷 隆史



カメラ同好会

PHOTO CORNER



前田 信行
「やっと会えた大阪万博話題のアトラス」



平井 保夫
「守り神」



川崎 史
「握手してください」



岡田 徹
「本年元日の日出」

日常、そして旅先の何気ない風景や心に残る情景、各自が色々な思いを込めて撮影しました。
ぜひ皆様もご参加ください。



中土井 亮太
「ステージ」



吉田 将人
「内宮御神木」



前田 由利
「超高層が小さく見える、淀川花火」



岡田 俊彦
「青函連絡船八甲丸勇姿は…」



稲垣 謙一
「円窓」



志水 保次
「雨が降ってきたのでちょっと一服」



波多野 隆之
「目指すは槍ヶ岳」



竹中 郁雄
「太陽」



佐川 圭
「伴奏しよか？ほな私、天城越え唄うわ」



渥美 充弘
「大野城 雲海」



柏本 保
「デンマーク・コペンハーゲン/ニューハーン」

建築美に宿る、 えびっさんの気品

広報研修部 佐野 晴美



毎年1月9日（宵えびす）、10日（本えびす）、11日（残り福）の三日間で行われる「十日えびす」には、例年100万人を超える参拝者が訪れる西宮神社。

西宮神社の魅力は活気だけではありません。ふと足を止めて本殿を仰ぎ見ると、そこには全国でも類を見ない独特の建築様式が広がっています。

全国唯一の「三連春日造」 さんれんかすがづくり

現在の本殿は、昭和20年の戦災で焼失した後、昭和36年に江戸時代の姿を忠実に復元したものです。最大の特徴は、三つの社殿が横に並び、それらが一つの屋根でつながっている「三連春日造」という形式です。

三つの社殿が繋がる美

向かって右に第一殿（えびす様）、中央に第二殿（天照大御神・大国主神）、左に第三殿（須佐之男命）が祀られています。

構造の妙

本来、一つひとつ独立しているはずの「春日造」の社殿が、屋根のラインを美しく揃えて連結されている姿



は、まるで三つの神殿が肩を寄せ合っているかのよう。この独特のスタイルは、西宮神社ならではの意匠として知られています。

黄金に輝く細部と「銅板葺」

屋根は重厚な銅板葺（どうばんぶき）で、反り上がった曲線が青空に映えます。柱や梁には鮮やかな朱塗りが施され、随所に施された金色の金具が、商売繁盛の神様にふさわしい豪華さと品格を漂わせています。

「赤門」と「大練塀」のコントラスト

福男選びのスタート地点として有名な表大門（赤門）。豊臣秀頼による再建と伝えられるこの門は、桃山時代の力強さを今に伝えています。そこから左右に伸びるのが、日本三大土塀の一つ「大練塀」です。泥と瓦を交互に積み重ねた縞模様の壁は、何百年という歳月を耐え抜いた堅牢さと、素朴な幾何学美を併せ持っています。

賑やかな祭礼の喧騒の中に、こうした静謐な建築の美しさが共存していること。それこそが、西宮神社が単なるイベント会場ではなく、千年以上の歴史を紡いできた聖域であることを物語っています。

南インドの旅

前田 由利

15年前西インドの旅をともにした仲間達と、念願の南インドへ。

旅程：2025年1月24日 関西空港発。シンガポール経由でチェンナイへ。

2月2日 コーチン空港からシンガポール経由で2月3日関西空港へ。

シンガポールチャンギ空港は、蝶々の舞う庭があったりして緑がふんだん。



カンチープラム。寺院に入る前に靴を脱ぐ。地元の人に比べて明らかにきれいな私たちの靴が、無事に残っているのか最初は不安だったが、信仰心が強いので大丈夫とのこと。



ヴァイクンタベルマル寺院。1つの岩から掘り出された壮大な建築。そして、ひとつひとつの彫刻が大変に美しい。何たるエネルギー。



ヴァラダジャーラ寺院。石の柱の回廊を歩く。池に面して風が流れ、石の上が気持ちいい。床にきれいな絵が描かれていた。お供えの花輪を作る人たち。



マハーバリプラムはたくさんの学生さんたちがいました。



南インド料理は、ホテルでもレストランでも、どれもとてもおいしくて、ついつい食べ過ぎました。



1月26日。チェンナイ空港からているチラーパッリへ。ジャンプゲシュワラ寺院、ランガナータ寺院を見学。極彩色寺院がこの町に何十棟もあるとは知らなかった。



1月27日。ブルハディーシュワラ寺院。11Cチョーラー長に建てられた。ご利益があるという水をかけてもらう。



ガンガイコンダチョーラープラム。



木陰のレストランでランチ。ヤシの葉のお皿。道端にいたクジャク。



マドライのミナクシスンドレーシュワラ寺院は、入口でセキュリティチェックの列に並ぶ巨大な寺院。撮影不可でした。

バドマナーバプラムは18世紀の木造宮殿。レースのような彫刻が施されて白檀の扇子を彷彿させます。中からは外の様子がうかがえるが、外から見えない格子。



カンニヤクマリ。インドの最南端のコリモン岬で夕日や朝日を見る。アラビア海、インド洋、ベンガル湾の3つの海が交わる場所。日本人が珍しいらしく、知らない人が次々に集合写真に乱入。



アレッピーで、ハウスボートに乗り込み1泊2日のバックウオータークルーズに。ゆったり過ごしました。最後はコーチン。ジュエッシーシナゴークやダッチパレスを見学して海辺を散歩。



インド舞踊を鑑賞。この踊り手は、顔のあらゆるところを動かせる人で、とても面白かった。

南インドは、年中30度前後で気候も温暖で湿潤。人々も温厚。第3弾は、東インドへ行きたい。

オリーブの樹を めぐるお話

有限会社 SORA DESIGN

間部 順子

オリーブと聞いて皆さんは何を想像されますか？

イタリア料理には、欠かせないオリーブオイル。

建築関係者のみなさまなら安藤忠雄氏らが発起人の『瀬戸内オリーブ基金』を思いつく方が多いかもしれません。

ちなみに、私は『石けん』と答えます！

有名なシリア・アレppoの石けん（オリーブ油配合率80～100％）の使用感が素晴らしかった事から、固形石けんの愛用をはじめ、世界中の様々な固形石けんを集めたり、使うのが大好きなのです！

消耗品ですので、長期のコレクションは難しい気もしますが、入手後数年間は保管し、時々ラベルを眺めたり、においをかいでみたり…配合割合や硬さ等から使用感は想像がつきますし、季節やお肌の調子、気分に合わせてマイペースに使う感じです。

一時は食用オリーブ油やココナッツ油等を配合し、自分でナチュラル石けんを作っていたりもしました。…語り出すと止まりませんので、石けんについてはこの辺りにします…

さて、今年開催された大阪・関西万博2025フランス館では、樹齢1000年を超えるオリーブの樹が展示され話題

を呼びました。

こちらを思い浮かべた方もいらっしゃるかと思います。

私は7月にパビリオンを訪問しましたが、フランスの一流ブランドの展示、ロダンの素晴らしい彫刻の数々にもうっとりしましたが、後半に屋外へ出た瞬間に現れた、そのオリーブの樹の美しい姿には圧倒されました。

開会前の情報で、オリーブの古木が移植される事は知っており、1000年を超え過ぎてきた故郷から移植してしまうのは、人のエゴではないだろうか…

さみしくないだろうか…という個人的な感情を抱いてはいたのですが…

美しい姿で多くの方々を魅了したことに変わりはありません。

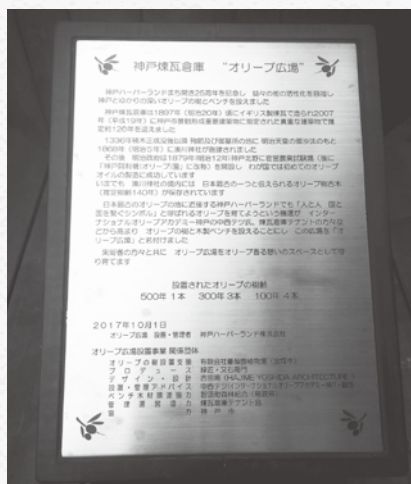
閉幕後はオークションにより入札にかけられたとの事。

現在、どのような状況なのかは不明ではありますが、どうぞ、その命と重ねてきた歴史を繋ぎ、末永く大切に守り続けていただきたいと思います。

さて、実は神戸にも樹齢500年を超えるオリーブの樹が存在しています。



大阪・関西万博2025フランス館
千寿オリーブ



こうべハーバーランド オリーブ広場
案内板



オリーブ広場 オリーブの樹

場所は神戸ハーバーランド、その名も『オリーブ広場』です。

煉瓦倉庫の近くといえはわかりやすいでしょうか。

オリーブ広場にはスペイン生まれの樹齢500歳を筆頭に、樹齢300歳、100歳のオリーブの樹々が並んでいます。

外観を見た限りですが、移動を想定してでしょう、鉢植えされているようです。

背の高さこそありませんが、歴史を重ねてきた風情を感じます。

そしてもう一つ、楠公さんの愛称で知られる『湊川神社』の境内には、日本で一番最初に植えられたとされるオリーブの樹が植樹されています。

こちらは樹齢約150年ほどのようですが、地面に植えられているため、背も高くのびのびとした印象を受けます。

秋ごろに実をつけると採油されているとニュースで見たことがあります。

湊川神社の正面の門（表神門）から社殿をみて、門のすぐ左手に植わっています。

神戸ハーバーランド～湊川神社は距離が近いですし、お近くに行かれる際には、皆さんもぜひ訪問してみてください。

尚、前半で触れましたが、現在国内では小豆島をはじめ瀬戸内沿岸地域でのオリーブ栽培が盛んにおこなわれています。

実は神戸には明治12年、明治政府により日本で初めてのオリーブ園『神戸阿利襪園』が開設されました。ただし、財政難などの理由により30年ほどで姿を消してしまったそうです。

尚、湊川神社の日本最古のオリーブはこのオリーブ園の開園～閉園のまでの関係者のご縁により、現在の場所に植樹されたようです。

そして、忘れ去られていた神戸北野のオリーブをめぐる歴史が、100年近い歳月を経て、研究者の論文により発表され、有志の方の手による『神戸オリーブ園復活プロジェクト』を経て、2020年、神戸市西区押部谷に『神戸オリーブ園』として開園しています。

オリーブオイルの採油・販売も開始されているようです。

西区で育った私にとって、なじみの深いエリアですし、何よりオリーブです！

近いうちに訪問してみます。

私をご縁を感じたオリーブの樹々をめぐるお話をご紹介します。

皆さんのおすすめのオリーブのある風景や、エピソードなど…機会があればぜひ教えてください。



オリーブ広場
オリーブの樹の古木にみのったオリーブの実



湊川神社
日本最古のオリーブ 案内板



湊川神社
日本最古のオリーブの樹

廊下を歩けば、100年前へ。 東京ステーションホテルで見つけた、 美しき歴史の迷宮

広報研修部
佐野 晴美



東京の心臓部、丸の内。絶え間なく更新され続けるこの巨大都市において、その中心に鎮座する赤レンガの駅舎は、単なる交通の要所ではありません。それは、巨大な時計の振り子のように、東京の過去と未来を繋ぎ止める「定点」のように感じます。

今回、私は重要文化財である東京駅丸の内駅舎の中に位置する「東京ステーションホテル」へと足を運びました。そこで目にしたのは、現代建築にはない豊潤な「時間の層」でした。

空間のプロポーション： 天井高が生むマテリアルの対話

客室の扉を開けた瞬間、まず目に飛び込んでくるのは、現代のホテル設計の常識を覆す、圧倒的な天井高です。

高度経済成長期以降の都市開発において、空間の「垂直方向のボリューム」は、しばしば収益性と効率化の犠牲となってきました。しかし、ここではその余白こそが



主役です。約3メートルを超えることもあるその豊かな容積は、呼吸する空間としての余裕をゲストに与えてくれます。

この容積の余裕があるからこそ、歴史的建造物特有の重厚な設えが息づくことができます。例えば、室内の建具。100年の歴史を背負うに相応しい厚みを持った木製のドアや枠回りは、触れるたびにその確かな質量を手伝えてくれます。それは、ベニヤやシート貼りでは決して再現できない、本物の素材だけが持つ「説得力」です。

さらに、その重厚な建具に添えられたゴールドのルームプレートが、空間に決定的な気品を添えていました。鈍い光を放つそのプレートは、単なる部屋番号を示すサイン計画の一部ではありません。それは、日常から切り離された「特別な物語」へとゲストを導くインデックス（索引）として機能しています。このプレートを鍵で開ける行為そのものが、迷宮への入り口を潜る儀式のように感じられるのです。

琥珀色の光が紡ぐ「歴史の迷宮」

客室を出て、ホテルを象徴する長い廊下へと足を踏み出すと、そこにはまた別の宇宙が広がっています。廊下に溢れているのは、心地よい琥珀色の光です。

特に感銘を受けたのは、その緻密なライティング設計です。全体的な照度は低く抑えられていますが、決して暗いとは感じさせません。壁面の凹凸やカーペットのテクスチャを効果的に浮かび上がらせる光の配置が、空間に深い陰影と奥行きを与えているからです。

この光の中に身を置いていると、まるで時間の粒子が空気中に漂っているかのような錯覚を覚えさせます。東京ステーションホテルの廊下は非常に長く、南北に300メートル以上も伸びていますが（東京ワターとはほぼ同じだそうです。）、この「光の演出」と、壁面に展示された膨大な「歴史的アーカイブ」の数々が、思考を巡らすプ

ロムナードとなっています。

アーカイブを眺め、赤レンガの構造を間近に感じ、琥珀色の光の中を歩む。それは、かつての文豪たちがこの場所で紡いだ言葉の断片を拾い集めるような、贅沢な迷宮彷徨のひとつときでした。

都市の脈動を俯瞰する： 終電後の静寂という借景

この滞在において、私の心に最も深く刻まれた景色があります。それは深夜、静まり返った廊下のアーカイブバルコニーから眺めた「終電後の丸の内駅前広場」の姿です。

数時間前まで、世界中からの旅人が行き交い、数万人の動線が交錯していた巨大なターミナル。その喧騒が嘘のように消え去り、広場は完全な沈黙に包まれていました。

客室から窓の外に視線を転じれば、対峙するKITTE（旧東京中央郵便局）が、深夜の静寂の中でその白亜の輪郭を凜と保っています。大正・昭和の面影を残す郵便局舎と、それを包み込む高層ビルの現代的な輝き。新旧の建築が対峙するその光景は、東京という都市が持つ多層的な魅力を象徴しているようでした。

都市のインフラとしての「駅」と、そこに寄生するように存在する「ホテル」。この二つは、動と静、日常と



非日常という対極の属性を持ちながら、一つの巨大な赤レンガの器の中で同居しています。ホテルからこの対比を静かに観察できること。それは、この建物の構造を熟知した設計者たちが仕掛けた、宿泊者という名の「観測者」への最高のギフトに他なりません。

光の天蓋に包まれる朝： アトリウムという聖域

歴史の迷宮を彷徨った翌朝、このホテルでの滞在を締めくくる最大のクライマックスが待っています。それは、駅舎の中央最上階に位置する「ゲストラウンジ アトリウム」での朝食です。

かつては屋根裏の空間であったこの場所は、復原工事を経て、高さ最大9メートルにおよぶ広大な開放空間へと生まれ変わりました。一步足を踏み入れると、天窓（トップライト）から降り注ぐ柔らかな自然光が、朝の清々しい空気をいっそう際立たせています。

私の目を楽しませるのは、何と言ってもその壁面に露出したオリジナルの赤レンガです。100年以上前に職人の手によって積まれたレンガの質感は、不揃いゆえの温かみとリズムを空間に与えています。天窓を支える鉄骨のトラス構造と、剥き出しのレンガ。この「インダストリアルな骨格」と、シャンデリアが輝く「エレガントな設え」の対比こそが、アトリウムを唯一無二の空間に仕

立て上げているのです。

ここで供される朝食は、まさにその空間の格に相応しいものでした。100種類近く並ぶメニューのどれもが、選りすぐりの素材を用いて丁寧に作り込まれています。朝陽がレンガの凹凸に長い影を落とし、時間の経過とともに刻々と表情を変えていく。コーヒーの香りに包まれながら、高く開放的な天井を見上げる時間は、都市の喧騒から完全に隔絶された、まさに「静謐の聖域」でのひとときでした。

変えてはいけないもの、受け継ぐべき豊かさ

チェックアウトのためにロビーへと向かう際、私は改めてこのホテルの特異性を噛み締めました。スクラップ・アンド・ビルドという激流にある東京において、ここには「変えてはいけないもの」を守り抜くという、強い意志が息づいています。

それは単なるノスタルジーではありません。100年前の意匠を現代の技術で磨き上げることで、現代の建物では決して到達できない「時間の深み」を作り出しているのです。

機能性や効率を超えた先にある、空間の「格」。それを肌で感じたこの滞在は、私にとって一生の糧となることでしょう。



【淡路島】 光の建築、ヨガするサンタ、 冬の「あわじグリーン館」満喫レポート

広報研修部
佐野 晴美

冬の淡路島。澄み渡る空と穏やかな海に囲まれたこの島に、世界中の植物と遊び心が詰まった場所があります。安藤忠雄氏が手掛けた日本最大級の温室「あわじグリーン館」です。

クリスマスシーズンに訪れた今回の旅では、圧巻の建築美はもちろんのこと、思わずクスッとしてしまう愉快的な仕掛け、そして淡路島ならではの絶品お土産まで、心もお腹も満たされる最高の1日となりました。その魅力を詳しくレポートします。

安藤建築に降り注ぐ、冬の黄金色の光

「あわじグリーン館」に足を踏み入れてまず感動するのは、その圧倒的なスケール感です。コンクリート打ちっぱなしの壁面と、高さ約20メートルのガラス屋根。幾何学的に配置された鉄骨が、冬の低い太陽光を反射して、館内に複雑で美しい影を落とします。

昼間に訪れると、館内はまるで天然のスタジオのよう。自然光に照らされた熱帯植物の緑は、夏よりもどこか優しく、透明感を帯びて見えます。この無機質な現代建築と、生命力あふれる有機的な植物のコントラストこそが、グリーン館の醍醐味です。



100人のサンタがお出迎え！ 「ヨガサンタ」を探せ

クリスマスシーズンの目玉は、なんといっても館内の至るところに現れるサンタクロースたちです。その数はなんと約100体！「次はどこにいるかな？」と探しながら歩くのが、大人でも夢中になる楽しさです。

中でも特筆すべきは、「くらしのみどり」エリアで見つけたサンタたち。このエリアは、私たちの日常に緑を取り入れるヒントが詰まったおしゃれな空間なのですが、そこにいたのは……なんと「ヨガに励むサンタクロース」！

驚きのポージング：観葉植物の横で、真剣な表情で片足立ちの「木のポーズ」を決めたり、体を大きく反らせたり。

シュールな癒やし：普段の「プレゼントを配るおじいさん」というイメージを覆す、アクティブで健康志向なサンタたちの姿は、驚くほど植物の空間に馴染んでいました。

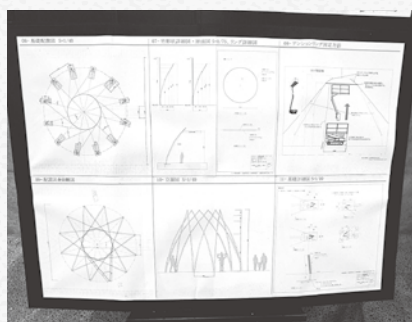
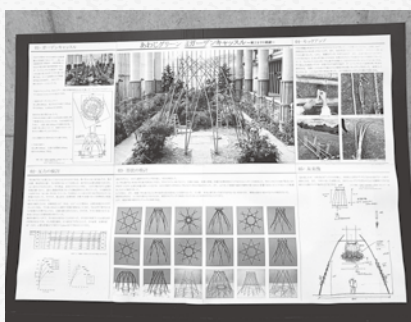
「そんなところでヨガしてるの!？」と思わずカメラを向けてしまう、

グリーン館らしい遊び心たっぷりの演出。このユーモアがあるからこそ、格式高い建築も親しみやすく、温かい空間に感じられるのです。



クリスマス限定・ ボタニカルデコレーション

もちろん、植物園としての本気度も素晴らしいものでした。



ポインセチアの海：赤、ピンク、白、さらにはマーブル模様まで。数えきれないほどのポインセチアが並ぶ光景は圧巻です。

熱帯のクリスマスツリー：モミの木ではなく、巨大なヤシや熱帯樹をベースにしたツリーは、淡路島らしいエキゾチックなムードを演出。オーナメントがキラキラと光を受け、南国のリゾートでクリスマスを過ごしているような気分にさせてくれます。

旅の締めくくりは、 淡路島の「美味しい」をお持ち帰り

植物園を満喫した後は、ショップでのショッピングも楽しみの一つ。今回は、淡路島に来たら絶対買って帰りたいかった「王道のお土産」をゲットしました。

淡路島の玉ねぎドレッシング

淡路島といえば、なんといっても甘い玉ねぎ。ショップには数多くのドレッシングが並んでいますが、どれも玉ねぎの含有量が驚くほど多く、もはや「野菜を野菜で食べる」ような贅沢さです。家に帰ってからサラダにかけるたびに、淡路島の旅の思い出が蘇ります。

淡路島の海苔

実は、淡路島は海苔の名産地でもあります。明石海峡

の豊かな潮流に揉まれた海苔は、色が濃く、風味が非常に強いのが特徴。パリッとした食感と磯の香りが抜群で、炊きたての白いご飯との相性は言葉になりません。自分用にはもちろん、親しい人へのギフトとしても間違いのない逸品です。

訪れて感じた「冬の淡路島」の魅力

「冬に植物園？」と思う方もいるかもしれませんが、寒い季節だからこそ、温室内での散策は格別です。コートを脱いで、暖かな光の中でサンタたちと出会い、色鮮やかな花々に囲まれる。それは、寒さで縮こまっていた心と体が、ゆっくりと解き放たれていくような体験でした。

昼間の太陽が作り出す光の芸術、ヨガをするサンタのユーモア、そして島の恵みが詰まった美味しいお土産。あわじグリーン館でのクリスマスは、五感すべてが喜ぶ素晴らしい休日となりました。

◆施設情報◆

名 称：あわじグリーン館

住 所：兵庫県淡路市夢舞台4番地

アクセス：車：神戸淡路鳴門自動車道「淡路IC」から約5分

バス：三ノ宮駅・高速舞子駅から高速バス「淡路夢舞台前」下車すぐ

見どころ：季節ごとの特別展示(クリスマスは11月中旬～)



大阪支店

株式会社 クギン

〒542-0076

大阪府中央区難波2丁目3-11 難波八千代ビル8階

TEL：06-6484-3006 FAX：06-6484-3007

URL: <https://kugin.co.jp/>

事業内容：

- ・鉄筋付きデッキ等の建築用資材の製造・施工
- ・現場に適したデッキプレートのご提案
- ・施工条件を踏まえた資材計画のサポート

■デッキ工事とラス型枠工事に特化しています

弊社は、設計事務所様・施工会社様を中心に、設計段階から現場完了までを見据えたデッキとラス型枠工事の提案を行っています。現場で運搬条件、揚重計画、施工順序、端部納まりなど、多くの判断が求められる部材です。

図面を読み解くだけでなく、“この物件、この立地、この工程ならどう納めるか”という現場視点を重視し、設計意図が無理なく現場で実現されるようサポートしています。

ラス型枠施工状況



商品紹介

鉄筋付きデッキ “トラストデッキ”

鉄筋コンクリートスラブの主筋とデッキプレートを一体化した合理的床構成材

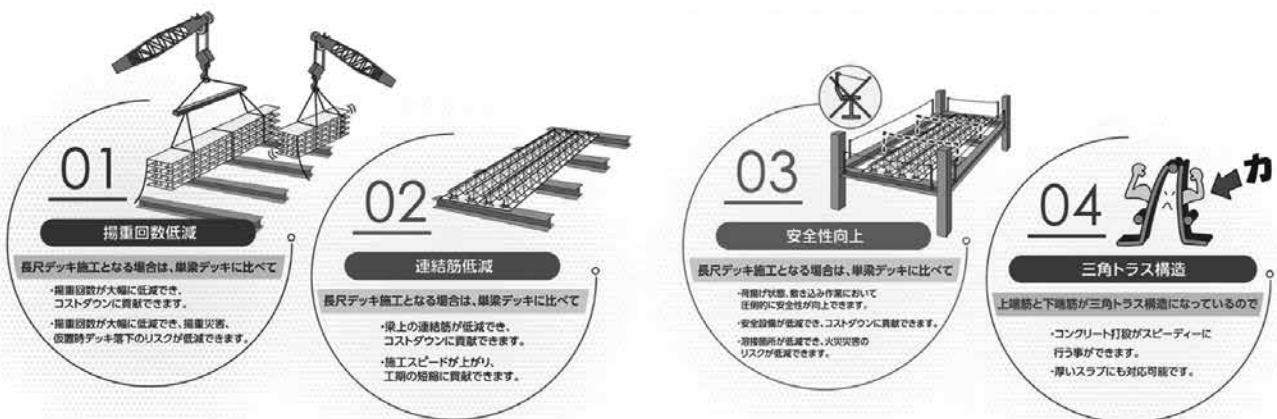


T [tough]..... 頑丈
R [reasonable].. 合理的
U [ultimate]..... 究極
S [safe]..... 安全
T [try]..... 挑戦
を兼ね備えた

TRUST DECK



- 鉄筋コンクリートスラブの主筋とデッキプレートを組み合わせた省力化建築商材
- トラス形状のラチス筋に上端下端主筋を取り付けたトラス筋を底板デッキと一体化させることにより高品質な配筋仕様を実現
- 建築構造技術の評価を受け「品質管理」と「製品検査」を徹底した工場生産品のため正確な配筋 ピッチとコンクリートかぶり厚さを確保
- 最大12mまでの大型スパンにも1枚のデッキプレートで対応可能
- 底板デッキが平らなので後工程となる内装仕上工事が容易





株式会社エネ・グリーン 大阪支社

代表取締役 谷川 嘉孝

一級建築士事務所 大阪府知事登録(イ)第25258号

〒532-0012

大阪府大阪市淀川区西中島7丁目1-20 第1スエヒロビル7F

T E L : 06-4862-7591

F A X : 06-4862-7592

H P : <https://www.enegreen.co.jp/>

mail : info@enegreen.co.jp

◆ ごあいさつ

このたび賛助会員として入会させていただきました株式会社エネ・グリーンと申します。

弊社は1999年に設立以来、「環境や人に優しい建物をプロデュース」をコンセプトに、建築設備設計に特化した一級建築士事務所です。総合建設コンサルタントとしても全国に7拠点を展開しております。

建築物の新築、改修、改築設計をすることはもちろん、省エネルギー化により環境にも配慮した建築設備設計を手がけているのが特長です。良質な建物造り、長期的な建物メンテナンスやライフサイクルコストを考慮し、お客様が安心して働き、生活できる建物造りを設計を通して本気でサポートしております。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。

◆ 主たる事業

建築設備設計、建築設計、上下水道申請サポート、省エネルギー計算・CASBEE支援・ZEB/ZEH検討支援、特殊建築物・建築設備の定期点検業務及び大規模改修設計、耐震診断・耐震補強設計業務及び大規模改修設計

◆ エネ・グリーンの魅力

弊社では、建築設備設計の他にも、手間と時間のかかる省エネ計算業務や報告業務の代行サービスも行っております。豊富な実績と知識を持ったスタッフがコストや工期・納期を考慮し、省エネ計算の資料作成から評価機関との質疑応答対応まで、日々の業務に追われるクライアントの皆さまに代わり、一貫してサポートいたします。日本全国どこでもサポート・対応いたしますので、エネ・グリーンにお任せください。





EM DESIGN × NEW GENERATION × ENERGY SAVING

コンセプトは「設備設計×新世代×省エネルギー」

私たちエネ・グリーンは、一級建築士事務所として、電気・機械の設備設計 (EM DESIGN) に新世代 (NEW GENERATION) と省エネルギー (ENERGY SAVING) を掛け合わせることで新しい建築の可能性を切り拓き、「設備設計×新世代×省エネルギー」というコンセプトのもと、ZEBとZEHに取り組み、カーボンニュートラル (脱炭素社会) の実現に貢献したいと考えています。



一級建築士事務所
株式会社エネ・グリーン

お問合せ 平日9:30~18:00
082-506-1263
info@enegreen.co.jp



より詳しい情報につきましては、
QRコードから弊社ホームページを
ご覧ください。

- 本店・広島本社：〒732-0827 広島県広島市南区稲荷町4-1 広島稲荷町NKビル10F TEL.082-506-1260 FAX.082-506-1270
- 東京本社：〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2丁目9-13 合人社御茶ノ水ビル5F TEL.03-4464-0403 FAX.03-4464-0404
- 支社：仙台支社・東京支社・名古屋支社・大阪支社・広島支社・呉支社・九州支社



株式会社ナカムラ 代表取締役 中村 栄樹

建築工事業 兵庫県知事許可（般-7）752498号

〒669-2465 丹波篠山市栗栖野 27-1

電話番号（代表）：079-595-1515

HP：http://www.nakamura-forest.co.jp/



■主な事業内容

- ・木造建築物のプレカット
- ・構造関連技術：許容応力度計算
- ・特殊工法：ハイブリッドトラス、門型フレーム・外壁パネル、狭小壁



■施工事例（一部）

- ・住宅
- ・幼稚園、保育園
- ・教会、社寺
- ・店舗、倉庫、事務所
- ・福祉施設



当社について：木造技術で未来を創造する

丹波篠山市に拠点を置く株式会社ナカムラは、木造建築物の構造材を工場で高精度に加工する木造プレカット事業を展開しています。1989年の10月創業以来、木造建築の可能性を追求し、全国の工務店様を技術で支えてきました。

私たちは、高い技術と安定した業績を基に、住宅だけでなく、保育園・幼稚園、店舗、倉庫、福祉施設、教会、社寺といった地図に残る中大規模建築の木造化にも貢献しています。

ナカムラが提供するプロフェッショナル・ソリューション

1. 現場の生産性を最大化する「高精度プレカット」

複雑な構造計算が必要な設計であっても、当社の工場にてミリ単位の精度で加工を行います。

現場での加工手間を大幅に削減し、工期の短縮と施工品質の均一化を実現。職人不足という業界の課題に対し、高品質な構造材を安定供給することで、現場管理のサポートをします。

2. 非住宅・中規模木造建築への対応

住宅分野で培った高い技術と安定した業績を基盤に、私たちは「中大規模建築の木造化」にも積極的に貢献しています。「地図に残る」建築物の木造化に置いて、特殊な構造材の加工や大規模物件ならではのシビアな要求にもお応えできる体制を整えています。

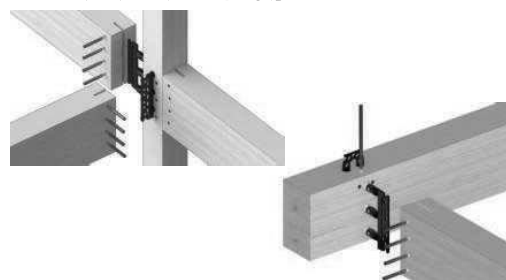


木造技術の発展により、鉄骨や RC 造で建てた大型建築物を 木質造で実現できるようになりました



構造設計からご提案

NK 工法は高度なプレカット技術と構造設計を一つのパッケージにして
意匠設計の段階からプラン王地区をサポートします



耐震接合金属と集成材が地震力の弱点を克服します



工期を短縮

建物重量が比較的軽い木造は、地盤や基礎の負担を大幅に軽減でき、基礎
の工期を短縮できます。

壁や開口部も工場で作成するパネル組工法で上棟から中間検査までを 2 週間
程度短縮することも可能です



プレカットとパネル工法の組み合わせで、均一な仕上がりを
実現し、上棟から中間検査までの日程を大幅に短縮します



建築コストを削減

鉄骨造の 1 割～ 2 割、RC 造の 2 割以上のコストを削減できる試算もあります。
菌ねん、鉄骨の価格高騰とコストダウンを目的に木造に計画変更されるケース
が増えています。

初期設計からの段階から木質大空間の設計提案を実施

耐震設計から納材加工管理まで一貫したシステムで実現します。

NK 工法 プレカットシステム

NK 工法設計部門
(株)ジョインウッド
NK 工法設計部門
一級建築士事務所による
設計サポート

許容応力度計算
構造検討
門型フレーム
混構造設計
確認申請関連図書
性能評価関連図書
長期優良サポート

納材管理
品質管理
建方指導

設計事務所

ビルダー工事

施主様 事業主様

プランニング・初期基本計画

実施設計、設計契約

工事契約

建築確認・申請

着工

完成

無料構造相談
受付中

プラン図面（概略・手書き可）をお送りください
無償で構造相談にお答えいたします。

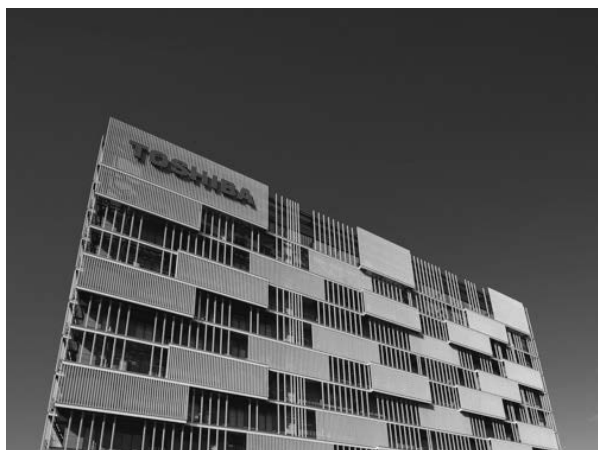
東 芝 エレベーター株 式 会 社 兵 庫 支 店

担当 谷川 尚隆

- 会社名：東芝エレベーター株式会社
- 代表取締役社長：鈴木正広
- 本社：神奈川県川崎市幸区堀川町 72-34
- TEL：044-331-7100
- HP：<https://www.toshiba-elevator.co.jp>

●主な事業内容

昇降機に関する開発、設計、製造、据付、販売、保守、リニューアルおよびビルファシリティ事業



●会社紹介

東芝の「技術と品質」により安全で快適な移動空間の創造を目指します。

東芝エレベーターは、昇降機に関わる製品やシステム、サービスの開発から設計、製造、販売、据付、保守、リニューアルそして空調、照明、エネルギーマネジメントなどのビルファシリティ事業までの一貫した体制を構築し、お客さまへ良質な製品とサービスをご提供します。

創業 150 年の東芝の社会インフラ事業の総合力を活かし、東京スカイツリー®に納入した国内最速大容量エレベーターや、TAIPEI101 の分速 1,000m を超える世界最高速クラスのエレベーター、そして国内最大の積載となる 90 人乗り大容量エレベーターなど、世界トップレベルの技術力によって、安全で快適な移動空間を提供し、さらなる技術・品質・サービスの向上を目指して、革新を追求し続けます。

安全・安心の、その先にある笑顔の実現へ。わたしたち東芝エレベーターは、一人ひとりに寄り添い、つなぎ、新たな価値を創造し、心躍る体験を共有します。

●主な沿革

1966 年 株式会社東芝府中工場昇降機部が発足。昇降機の製造・販売を開始。

1967 年 東芝昇降機サービス株式会社を設立。（昇降機保守専門会社）

2001 年 一貫した昇降機事業を専業とする新会社東芝エレベータ株式会社を設立。

兵庫支店について

■担当窓口：東芝エレベータ株式会社 兵庫支店

■支店長：福田 将夫

■所在地：兵庫県神戸市中央区加納町 4 - 2 - 1

■TEL：078-332-3040

兵庫支店受付



執務場所風景



■担当者より

2025 年 4 月より兵庫県建築士事務所協会 神戸支部に入会いたしました、東芝エレベータ株式会社兵庫支店でございます。社名のとおり昇降機の開発・設計・製造・販売・据付・保守・リニューアルを事業の柱として、日々活動しております。ここからは、個人的な話となり恐縮ではございますが、私と神戸とのご縁について書かせていただきます。

私が営業として初めて勤務したのは、当時、東芝製エレベーター・エスカレーターの販売を担当していた東芝エレベータ販売株式会社神戸支店でございます。1988 年の入社時は技術担当として勤務しておりましたが、バブル崩壊に伴い営業部門の業務が厳しくなることが予測され、会社事情により入社 4 年目に営業へ配置転換となりました。そして、その着任先が神戸でございました。

当然、営業のことは全く分からず、何をどうすれば仕事になるかも理解していなかった若輩者を育ててくださったのは、紛れもなく神戸という土地であり、神戸のお客様でございました。以来、会社員生活のほぼ半分を神戸で過ごしてまいりました。近年では、残り少ない会社員生活の中で何かしら神戸に恩返しができればとの思いを抱いております。その一つの形が、神戸を中心に活動をされている兵庫県建築士事務所協会 神戸支部への入会であったと考えております。

今後も、いただいたご縁を大切に、つなげていくべく精進してまいりますので、ぜひともお引き立てを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

会員動向

正会員 入会

氏 名	事 務 所 名	住所／TEL／E-mail
坪井 飛鳥	atelier thu	〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通3-1-5 海岸ビルディング304 T E L 078-958-5522
菅 匡史	株式会社菅匡史建築研究所	〒650-0021 兵庫県神戸市中央区三宮町2-11-1 センタープラザ西館608号室 T E L 078-333-1480 E-mail suga@sugat.net
高見 和人	HALO木構室一級建築士事務所	〒669-3464 兵庫県丹波市氷上町石生674-5 T E L 090-8887-6267 E-mail halo-takami@outlook.jp
萬田 隆	一級建築士事務所株式会社tmsd	〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4 デザインクリエイティブセンター神戸 202 T E L 078-381-9861 E-mail manda@mantaka.net
門田 一夫	和田興産株式会社一級建築士事務所	〒650-0023 兵庫県神戸市中央区栄町通4-2-13 T E L 078-361-5102 E-mail wcs@wadakohsan.co.jp
梅田 高志	大建興産株式会社	〒651-0087 兵庫県神戸市中央区御幸通8-1-6 T E L 078-262-1000 E-mail tomoyo.inoue@daiken-k.jp
谷 弘一	ブロードファースト株式会社	〒673-0844 兵庫県明石市東野町2043-24 T E L 078-911-2677 E-mail goalie0621@gmail.com
嶋田 泰宏	株式会社Ys設計	〒651-0085 兵庫県神戸市中央区八幡通1-1-14 IPSX SOUTH 1005 T E L 078-862-8860 E-mail shimada@yssekkei.co.jp

正会員 変更

氏 名	事 務 所 名	住所／TEL／E-mail
仲谷 隆史	寄神建設株式会社	住所／TEL 変更なし E-mail t-naka@yorigami.co.jp
坊農 良司	阪神国際港湾株式会社一級建築士事務所	住所／TEL 変更なし E-mail r-bono@hanshinport.co.jp

賛助会員 入会

氏 名	事 務 所 名	住所／TEL／E-mail
福田 将夫	東芝エレベータ株式会社 兵庫支店	〒650-0001 兵庫県神戸市中央区加納町4-2-1 神戸三宮阪急ビル10階 T E L 078-332-3040 E-mail naotaka.tanigawa@glb.toshiba.co.jp
古澤 一也	株式会社内藤ハウス 大阪支店	〒540-0031 大阪府大阪市中央区北浜東2-16 日刊工業新聞社ビル4F T E L 06-6941-7110 E-mail y-yamanouchi@naitohouse.co.jp
谷川 嘉孝	株式会社エネ・グリーン 大阪支社	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島7-1-20 第1スエヒロビル7F T E L 06-4862-7591 E-mail osaka@enegreen.co.jp
太田 一也	有限会社太田ブロック	〒672-8025 兵庫県姫路市飾磨区堀川町91-1 T E L 079-278-5685 E-mail oota.block.777@gmail.com
中村 栄樹	株式会社ナカムラ	〒669-2465 兵庫県丹波篠山市栗栖野27-1 T E L 079-595-1515 E-mail infonk@nakamura-forest.co.jp
釘宮 祐治	株式会社クギン 大阪支店	〒542-0071 大阪府大阪市中央区難波2-3-11 難波八十代ビル8階 T E L 06-6484-3006 E-mail itou_y@kugin.co.jp

退会者

氏 名	事 務 所 名	退 会 日
山岸 捷一	株式会社山岸建設一級建築士事務所	2025年 5 月
平川 宏行	有限会社竹久建築設計事務所	2025年 7 月
谷 弘一	明石土建株式会社一級建築士事務所	2025年10月
原田 敏隆	有限会社原田デザイン	2025年11月

令和7年度神戸支部活動報告

令和7年

(令和7年4月1日～12月15日)

4月3日(木)	神戸支部令和6年度監査会	出席者	10名
4月5日(土)	建築士事務所キャンペーン：魚崎地域福祉センター 建築模型体験会及び無料建築相談会	一般参加者 支部出席者	30組 23名
4月10日(木)	第7回幹事会（令和6年度：ハイブリッド会議）	出席者	16名
4月15日(火)	総務会計部会	参加者	3名
5月1日(木)	総務会計部会	参加者	5名
5月9日(木)	第1回正・副支部長会	出席者	5名
5月13日(火)	神戸支部第66回定時総会	出席者 表決委任者 合計	27名 61名 88名
5月13日(火)	神戸支部賛助会第33回定期総会	出席者 表決委任者 合計	29名 16名 45名
5月23日(金)	神戸市安全対策課耐震推進係と協議 「緊急輸送道路沿道建築物所有者ヒアリング及び耐震化初期サポート業務」	出席者	6名
5月30日(金)	第1回発注業務推進部会	出席者	4名
6月2日(月)	第1回事業厚生部会	参加者	7名
6月2日(月)	第1回広報研修部部会	出席者	5名
6月4日(水)	第1回総務会計部会	出席者	6名
6月11日(水)	第2回正・副支部長会（リモート会議）	出席者	9名
6月12日(木)	第226回KJ会ゴルフコンペ	参加者	20名
6月18日(水)	神戸市安全対策課耐震推進係と協議 「緊急輸送道路沿道建築物所有者ヒアリング及び耐震化初期サポート業務」	出席者	6名
6月19日(木)	第1回幹事会（ハイブリット会議）	出席者	20名
6月25日(金)	第12回賛助会技術研修会（ハイブリット型）	参加者	31名
7月2日(水)	第2回事業厚生部会	参加者	7名
7月7日(月)	すまいるネット運営委員会	支部参加者	1名
7月8日(火)	第2回広報研修部部会	出席者	8名
7月11日(木)	神戸市安全対策課耐震推進係と協議 「緊急輸送道路沿道建築物所有者ヒアリング及び耐震化初期サポート業務」	出席者	6名
7月15日(火)	神戸市安全安心ネットワーク第2回情報交換会	出席者	2名
7月31日(木)	第3回正・副支部長会（リモート会議）	出席者	11名
8月4日(月)	高経年マンション外観調査協議	出席者	12名
8月5日(火)	日帰り研修（大阪・関西万博：日本館）	参加者	39名
8月6日(水)	第2回幹事会（ハイブリット会議）	出席者	15名
8月8日(金)	神戸市安全対策課耐震推進係と協議 「緊急輸送道路沿道建築物所有者ヒアリング及び耐震化初期サポート業務」	出席者	6名
8月18日(月)	建築士事務所キャンペーン準備会	出席者	6名
8月21日(木)	第3回広報研修部部会	出席者	8名
8月23日(土)	建築士事務所キャンペーン：魚崎地域福祉センター 建築模型体験会及び無料建築相談会	一般参加者 支部出席者	30組 18名
8月26日(火)	第2回総務会計部会	出席者	6名
8月26日(火)	第3回事業厚生部会	出席者	6名
8月29日(金)	神戸支部財務関連協議	支部出席者 本部出席者	4名 3名

9月3日(水)	緊急輸送道路沿道建築物耐震化説明会	出席者	9名
9月10日(水)	第227回K J 会ゴルフコンペ	参加者	20名
9月19日(金)	建築士事務所交流会 (会員拡大事業)	会員出席者	22名
		非会員参加者	11名
9月26日(金)	正会員・賛助会員技術研修会	参加者	17名
9月29日(月)	建築士事務所キャンペーン事前協議	支部出席者	2名
10月1日(水)	第4回正・副支部長会 (リモート会議)	出席者	8名
10月7日(火)	第4回事業厚生部会	出席者	6名
10月9日(木)	第3回幹事会 (ハイブリット会議)	出席者	17名
10月23日(木)	第4回広報研修部部会	出席者	6名
10月26日(日)	一泊研修 (三重県/関宿・伊勢神宮外宮)	参加者	22名
10月27日(月)	一泊研修 (三重県/伊勢神宮内宮・おかげ横丁・VISON)		
11月5日(水)	神戸支部会員向けセミナー	参加者	22名
11月14日(金)	建築士事務所キャンペーン準備会	参加者	4名
11月19日(水)	TOTTEIPARK・GLION ARENA KOBE 見学会 (阪神支部1名、姫路支部11名、準会員1名含む)	参加者	47名
11月22日(土)	建築士事務所キャンペーン：本庄地域福祉センター 建築模型体験会及び無料建築相談会	一般参加者	29組
		支部出席者	19名
11月26日(水)	第5回広報研修部部会	出席者	6名
11月27日(木)	第5回正・副支部長会 (リモート会議)	出席者	9名
12月4日(木)	第4回幹事会 (ハイブリット会議)	出席者	16名
12月11日(木)	第228回K J 会ゴルフコンペ	参加者	15名
12月15日(月)	第1回相談役会・役員選考委員会	出席者	10名



4月 事務所キャンペーン



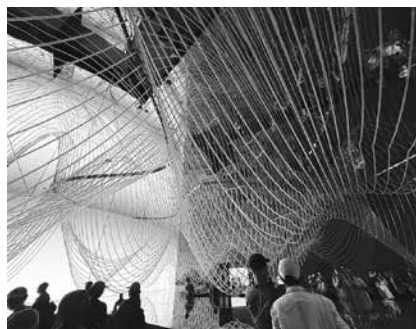
5月 総会 支部長挨拶



5月 総会 懇親会



8月 日帰り研修 大阪・関西万博：大屋根リング



8月 日帰り研修 大阪・関西万博：日本館



9月 建築士事務所交流会

今後の主な予定

令和7年

(令和7年12月～令和8年5月)

12月22日(月)	第5回事業厚生部会
12月22日(月)	第3回総務会計部会
1月8日(木)	第6回広報研修部部会
1月13日(火)	新年互礼会 開催決定
1月23日(金)	第14回正会員・賛助会員技術研修会
1月29日(木)	第6回正・副支部長会(リモート会議)
1月31日(土)	支部広報誌「アプローチ55号」発刊
2月3日(火)	研修見学会(大阪文楽劇場、空堀商店街) 開催決定
2月5日(木)	第5回幹事会(ハイブリット会議)
2月10日(火)	法規講習会 開催決定
2月10日(火)	第41回親睦ボウリング大会 開催決定
3月10日(火)	第7回正・副支部長会(リモート会議)
3月11日(水)	第229回KJ会ゴルフコンペ
3月19日(木)	第6回幹事会(ハイブリット会議)

令和8年

4月3日(木)	神戸支部令和7年度監査会
4月10日(金)	第7回幹事会(ハイブリット会議)
5月12日(火)	神戸支部第67回定時総会
5月12日(火)	神戸支部賛助会第34回定期総会



10月 一泊研修 関宿



10月 一泊研修 VISON



10月 一泊研修 伊勢神宮



10月 一泊研修 夕食

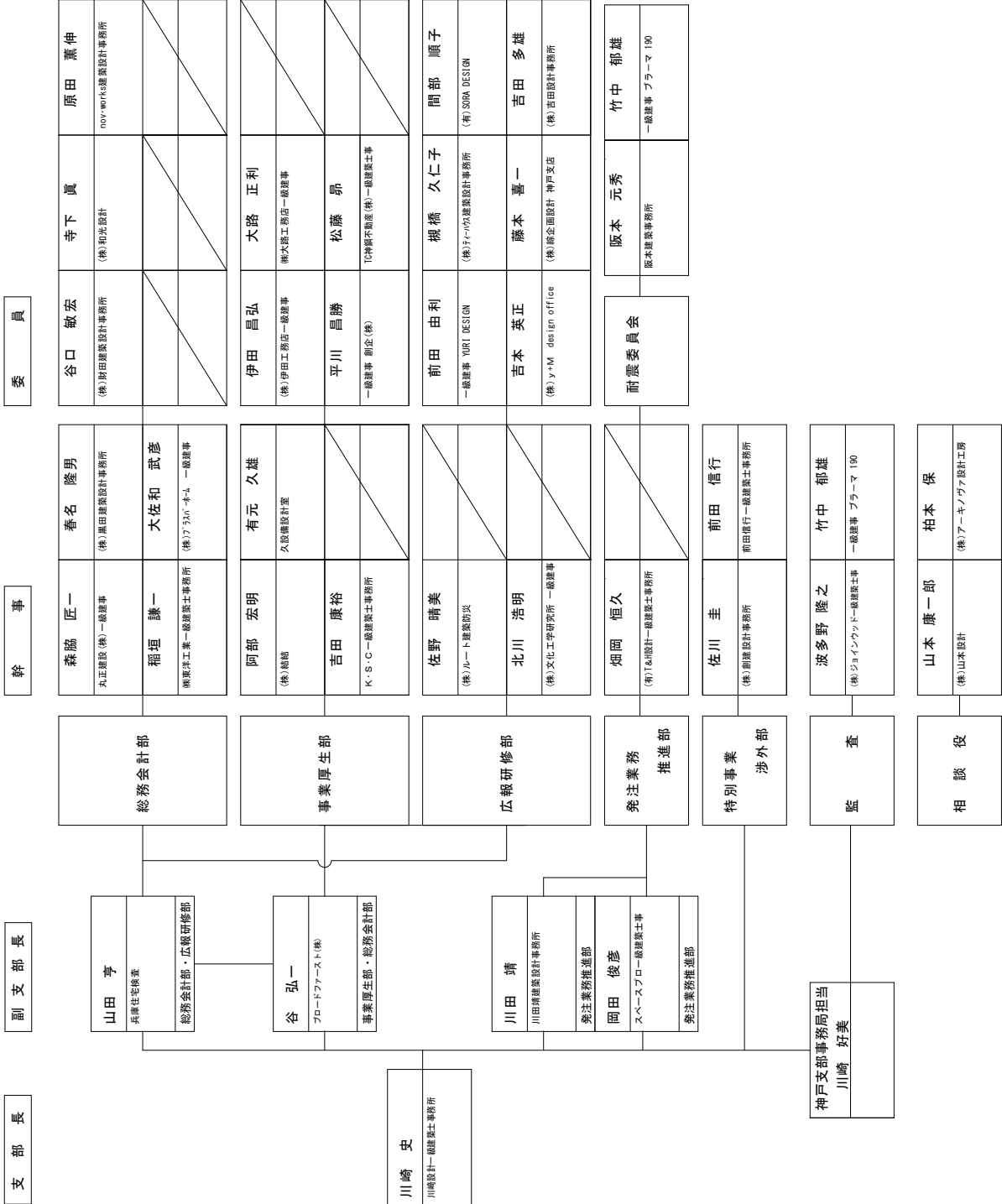


10月 一泊研修 昼食



10月 一泊研修 二次会

(一社)兵庫県建築士事務所協会 神戸支部 組織図・役員業務分担表 (令和7年度)



兵庫県自治賞

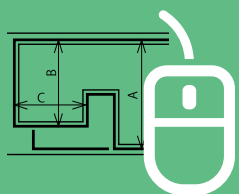


谷 弘一 氏

令和 7 年12月15日



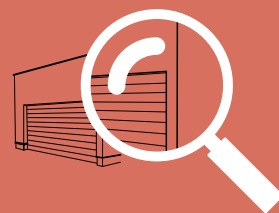
設計・監理



耐震診断



建物調査



川崎設計 一級建築士事務所

〒651-1142 神戸市北区甲栄台4丁目15-11

TEL & FAX : 078-597-8971

<http://www.spacepro.biz/>

SPACE PRO
architect office

スペースプロ 一級建築士事務所

代表 岡田 俊彦

TEL 078-946-8880



■神戸オフィス 〒650-0011 神戸市中央区下山手通2-13-11 トアロードビル802

■明石海岸事務所 〒674-0065 明石市大久保町西島1158-1

あなたのお家のお医者さん



兵庫住宅検査は、2026年4月1日より
下記住所へ事務所を移転いたします。

〒651-0083
兵庫県神戸市中央区浜辺通4丁目1-2 3
三宮ベンチャービル 702号

兵庫住宅検査

〒651-0087 兵庫県神戸市中央区御幸通6丁目1-3 山田ビル4F
TEL 078-231-0331 E-mail: h.i.hyogo.yamaga@gmail.com



ルート建築防災

ROUTE KENCHIKU BOUSAI

資源循環を可能にする材料と技術を生かすことにより
都市空間のサーキュラーエコノミー推進にきよします



久保田セメント工業株式会社
Kubota Cement
founded in 1906

〒650-0047 神戸市中央区港島南町3丁目3-4
TEL: 078-304-0800 FAX: 078-304-0810
<https://www.kubota-c.com/>

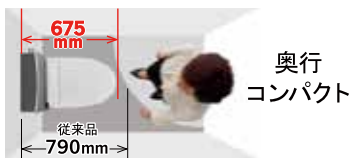
TOTTEI PARK(神戸市)
舗装材「ユニバーサルFG」敷設



パブリック向けクイックタンク式床置便器



隠したい
部分も
すっきり
キレイ



いつもと同じみんなのトイレ 災害配慮トイレ/レジリエンストイレ



LIXIL

お客さま相談センター 0570-017-173
受付時間：平日 9:00～18:00 土・日・祝 9:00～17:00
(ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く)

掲載内容及び写真・図版の無断転載は
かたくお断りします。(許可なく転載・
流用した場合、損害賠償が発生します。)

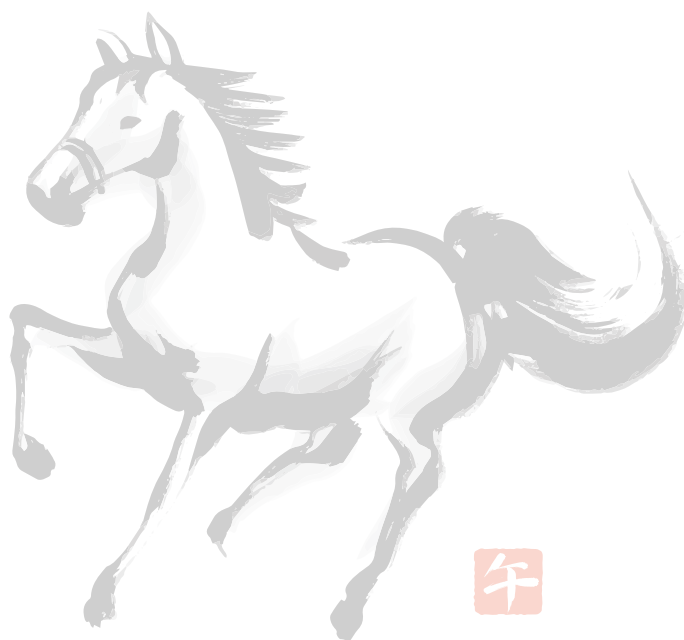
※操作方法により実際の使用水量
は変化します。



株式会社 クギン

大阪支店：06-6484-3006

デッキプレート・鉄筋付きデッキのことなら
設計段階からご相談ください！
短工期・省力化に貢献する各種デッキをご提案します。



アプローチ56号投稿のお願い

本誌面を通じ会員の交流や意見、研究等の発表の場として活用して戴きたく、会員・賛助会様には、内容については自由ですのでたくさんのご投稿をお待ちしております。



入会のご案内

当協会では随時、正会員・賛助会員を募集しております。

入会に関する質問は、メール・FAX・電話にてお問い合わせください。

会員の種別

種別	説明	年会費	入会金
正会員	建築士事務所の登録を受けた事務所の開設者で建築士事務所協会の目的に賛同した者	68,000円	15,000円
準会員	正会員の事務所に勤務又は将来建築士事務所の開設を目指す年齢50歳未満の方等	12,000円	
賛助会員	建築士事務所協会の目的に賛同した個人又は団体	60,000円	

※各支部の規定により支部費を納めて頂くことがあります。
詳細は各支部にお問い合わせください。

入会の手続き

入会は、入会申込書を支部に郵送してください。到着次第連絡いたします。

入会申込書の提出

申込書にご記入の上、原則、会員になろうとする事務所の所在地がある支部へご提出ください。

入会手続き

提出いただいた入会申込書は支部を経由し本部理事会にて正式承認となります。

入会手続き完了

入会手続き完了後、
①会員の章 ②会員名簿
③建築設計関係業務報酬表
④広報誌「くすのき」
⑤日事連会報月間「日事連」
⑥会員証 を随時発行いたします。

編集後記

今年も無事にアプローチの編集を終えることができ、大変嬉しく思います。

まだ支部活動に参加されたことのない会員の皆様、「アプローチ」にて支部の雰囲気を感じていただき、支部活動への参加をご検討頂きたいと思います。

今後とも皆様からの支部活動へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、アプローチNo55の発行にご協力いただきました皆様へお礼申し上げます。(佐野)

■編集 一般社団法人兵庫県建築士事務所協会 神戸支部

■発行 一般社団法人兵庫県建築士事務所協会 神戸支部
〒651-1142 神戸市北区甲栄台4丁目15-11
TEL・FAX 078-597-8971
E-mail kobe-office@hyogo-aaf.org

	支 部 長	川崎 史
広報研修部	担 当 副 支 部 長	山田 亨
	広 報 研 修 部 長	佐野 晴美
	ス タ ッ フ	北川 浩明
		前田 由利
		槻橋久仁子
		間部 順子
		吉田 多雄
		吉本 英正
		藤本 喜一
賛 助 会	エスケー化研(株)	藤谷 章
	小松ウオール工業(株)	出田 洋平
	クマリフト(株)	木村 聖司
	大創建設工業(株)	川原 忠雄

■印刷 有限会社岸本出版印刷
〒652-0806 神戸市兵庫区西柳原町3番29号
TEL 078-681-2456
FAX 078-681-2457

